

漢語話者のための
わかりやすい日本語シリーズ

5

発音指導の 手引き



財団法人 国際文化フォーラム

財団法人 国際文化交流中心

漢語話者のための
わかりやすい日本語シリーズ⑤

発音指導の 手引き

國語の基礎知識
とくに「い」の語本日の本での扱い

國語の基礎知識 とくに「い」の語本日の本での扱い

はしがき

国際文化交流を担う日本の民間財団として 1987 年に設立された国際文化フォーラムは、発足以来一貫して中国の日本語教育をサポートする事業を行ってきました。とりわけ力を注いできたのは中高校における日本語教育でした。日中国交回復 20 周年の 1992 年より 4 年連続で開催した「全中国中高校生日本語弁論大会」や、1996 年より毎夏開催している東北部（内蒙古自治区、吉林省、黒龍江省、遼寧省）の普通中学（中学、高校を含む）の教師を対象とした「中国中高校日本語教師研修会」、そして中国人民教育出版社の中等教育向け日本語教科書編纂への協力、日本語教師への情報提供及びネットワーキングなど、日本語教育の基盤整備をめざしたこれらの事業に、中国側関係者と共同で取り組んできました。

本教材は日本語教師のレベルアップをめざした上記研修会のテキストとして制作したものでありますが、教師が研修会後も座右に置いて、日々の疑問や質問に対処したり、新しい教授法を自分のものにしたりすることを目的として編集されています。日本人と直接話した経験も持たず、研修の機会も教材も少ない中で、何十年も日本語教育に心血を注いできた日本語教師がまだまだ多いのが現状であります。本教材は、中高校のための『日語教学大綱』（中国国家教育部発行）や日本語教科書（中国人民教育出版社発行）を踏まえ、かつ 6 回の研修会に参加した延べ 471 名の中高校の日本語教師と日本語教研員からの意見も反映させながら、日本語教科書の教師指導書とともに日本語教師にとって一つの拠所となることをめざしました。5 年におよぶ制作プロジェクトが終了し、この度出版の運びとなったことは大変大きな喜びであります。

本教材が、日本語教師のみならず、日本語を学んでいる漢語話者一般にも参考になれば幸甚であります。最後になりましたが、本教材が完成に漕ぎつけるまで協力の手を惜しみなく差し伸べてくださった多くの日本語教育専門家の方々に、心からの感謝の意を表したいと思います。

2002 年 7 月

財団法人 国際文化フォーラム

漢語話者のためのわかりやすい日本語シリーズ⑤

『発音指導の手引き』制作メンバー

執筆 永保澄雄 龍谷大学非常勤講師

中文翻訳 朱春躍 元北京外国語大学教授

『発音指導の手引き』について

本テキストは、中国中高校日本語教師研修会の教師用参考資料として開発されたものです。音声のテキストとしてはすでに『発音』が刊行されていますが、この『発音指導の手引き』は字義どおりその手引書となっていて、漢語話者が日本語の音声を学習する時、また指導する時の問題点と解決法が具体的に示されています。

本テキストの目的は『発音』と同じく、どうしたら漢語話者が日本語を日本語らしく話したり、また話せるようにすることができるかということです。内容としては漢語を使っていることがどのように日本語学習に影響を与えるかといういわゆる母語の干渉を考えながら、音声指導上の具体的な問題を取り上げています。発音の直し方も取り上げましたが、実際にそれを行うには相当程度の音声学的素養を要しますから、ここでは典型的な指導例を挙げるに留めました。

本テキストは、教える人にあまり音声学的素養がないことを想定して、記述をなるべく平明にして、あまり音声学用語は使わないようにしました。中国語の訳を付けたのも同様の趣旨によるものです。ただ、どうしても必要な音声学用語はそのまま使うことにしました。日本語を教える場合、音声学や音韻論の知識は必須ですので、まだ勉強されていない方は、この際、勉強を始めることをお勧めします。はじめは市販の音声学入門書で勉強するのがいいでしょう。音声学をすでに勉強している方には、日本語音声学習の専門書『語音詳解』（朱春躍編著 外語教学与研究出版社、2001）をお勧めします。直接この本をご覧ください。

朝鮮語話者もこのような手引き書が必要ですが、漢語話者と共通した問題も

多いので、今回は漢語話者の場合と特に異なる点について泉文明氏にコラムで取り上げていただきました。朝鮮語話者に対する日本語教育の専門家として早くからこの研修会に関わって来られた泉氏は、本シリーズ①『発音』の朝鮮語話者対象の部分も執筆されています。

本テキストの執筆に当たっては、(財)国際文化フォーラムの長江春子氏に補筆をしていただきました。氏は中国語と日本語のバイリンガルであり、漢語話者として日本語を学習するとともに、教えた経験も持っています。同じく漢語話者で中国の日本語音声研究者である朱春躍教授にもいろいろご示教、ご助言をいただきました。このお2人の協力を得られたことは本テキストの大きな強みとなっています。また、朱春躍教授に翻訳していただいたのも大変ありがたいことでありました。

このほか、上に挙げた泉文明氏と同じく、『発音』の漢語話者対象の部分執筆し、この研修会でも音声を教えて来られた山口敏幸氏にもご協力いただきました。また、校正、編集の段階では、(財)国際文化フォーラムの千葉美由紀氏を煩わせました。併せてここに記し、心から謝意を表する次第です。ありがとうございました。

永保澄雄

本テキストの構成と留意点

本テキストは3章から構成されています。

「第1章」では、発音指導に当たって留意すべき点と、日本語らしく話すために留意すべき点について解説しています。

「第2章」では、個別の音について、間違った発音の直し方やヒントを提示しています。また、朝鮮語話者のためにコラムを設けてあります。

「第3章」では、発音練習の素材を提示しています。「基本篇」では五十音図、拡大五十音図の範囲で、拍を練習する素材を提示しています。「発展篇」では、「第2章」で解説した各項目に対応する練習素材を提示しています。「総合篇」ではまとまった会話文、自己紹介のためのミニスピーチ、朗読文を練習の素材として提示しています。「第1章」「第2章」で日本語の音声指導のポイントを会得し、「第3章」で繰り返し練習することによって実践的な成果を上げるよう期待しています。

アクセント記号について

第1章、第2章では、一部の例だけにアクセント記号を付けました。これは『日本語発音アクセント辞典』（新版 NHK 放送文化研究所編 1998）に従いました。練習素材文では、アクセント記号を使用していません。この発音については、本テキストの付属音声テープをご参照ください。付属音声テープのモデル音声は、日本語のいわゆる「共通語」を基準にしています。

中国語訳について

本テキストでは、和文といっしょに中国語訳を付してあります。翻訳は直訳を避け、自然な中国語にすること、わかりやすい内容にすることを重視しました。

その他の表記について

音声表記については、音素は/ /、中国語のピンインは「 」、音声記号は[]でそれぞれ括ってあります。また、例や言い換え、意味は()で括ってあります。

目次

はしがき	iii
制作メンバー	iv
『発音指導の手引き』について	iv
本テキストの構成と留意点	vi

第1章 発音指導にあたって

第1課 授業で心がけること	2
第2課 日本語らしく話すために	9
第3課 日本語の「五十音図」	19

第2章 発音指導法

第1課 母音と半母音の指導	26
コラム1 朝鮮語の母音との比較	31
コラム2 朝鮮語の半母音との比較	32
第2課 有声音・無声音の指導	34
コラム3 朝鮮語話者の子音①	37
コラム4 朝鮮語話者の子音②	40
第3課 重点的に指導すべき子音	41
コラム5 朝鮮語話者の子音③	42
第4課 特殊拍の指導	48
コラム6 朝鮮語話者の 「拍感覚」の問題	53
第5課 母音の無声化の指導	54
第6課 プロソディーの指導	58

第3章 発音練習の素材

発音練習の素材について	64
基本篇	68
拍の練習 1	68
拍の練習 2	69
拍の練習 3	73
発展篇	75
母音・半母音の練習	75
拗音の練習	77
「か行」「が行」の練習	78
「さ行」「ざ行」の練習	79
「す」「ず」「つ」の練習	80
「た行」「だ行」「ば行」「ら行」 の練習	82
促音の練習	84
長音の練習	85
撥音の練習	86
母音の無声化の練習	87
アクセントの練習	87
総合篇	90
会話の練習	90
自己紹介の練習	91
朗読の練習	92

第1課

授業で心がけること

1. 発音指導は日本語学習
の第1段階からしっかりと

母語の音声学習は、小さい時に周りの人の発話を真似ることから始まる。最初から正しく発音できるわけではない。4、5歳になっても特定の音を正しく発音できない子供をよく見かける。しかし、身近な人の発音を聞いて自分で修正したり、身近な人に発音の間違いを直してもらったりすることを繰り返しているうちに、自然に正しい発音を身につけるのである。外国語の発音の習得にも同じような過程と時間を要するが、言語形成期（大体12歳前後まで）を過ぎると、新しい音声体系の習得は難しくなる。いわゆる母語の干渉が起こるからである。

目標言語を正しく発音できない、あるいは間違った発音が定着してしまっている、ということは、恥ずかしいことでもいけないことでもない。気をつけて練習を重ねれば正しい発音に近づくことができる。ただ、間違った発音が定着してしまうと、時間が経てば経つほど修正に時間がかかる。したがって、発音指導は日本語学習の第1段階からしっかりと行う必要がある。特に、最初の10時間ないし20時間内に徹底的に訓練して日本語の発声の土台を作っておくことが大切である。

母語の语音学习是从小模仿周围人说话开始的。但人们并不是从一开始就能正确地发音,到了4、5岁时仍有个别音发不好的孩子是很常见的。孩子们根据周围人们的发音来自我纠正,或者错误的发音被周围的人们纠正,正确的语音就

是在这样的过程中逐步掌握的。学习外语的语音时也要经过这样的过程，并且需要相当的时间。但是，过了语言形成期（大约12岁左右）后再学习一个新的语音体系，就会变得很困难。这是因为存在着母语干扰。

目标语言的语音发音不正确，或错误的发音已经定了型，这既不需要难为情，也不是什么不可以的事情。只要自己意识到问题的存在，多多练习，就能向正确的发音靠近。只是，错误的发音习惯一旦定了型，时间过得越久，纠正起来也就越需要花功夫。因此，需要从日语学习一开始就认真地进行发音指导。特别是最初的10学时或20学时，进行彻底的语音训练，扎扎实实地打好日语语音的基础，是非常重要的。

2. 目標を明確に立て、明確に評価する

授業の目標を明確に立てることが必要である。授業の冒頭にその授業の目標を生徒に示し、授業が終わった時、目標としていたことがどの程度達成されたかを明確に評価する。評価する際には、生徒の意欲をそいだし、恥ずかしい思いをさせたりしないように、生徒ひとりひとりについて上達度を評価する必要がある。また、生徒に自己評価させることも効果的である。

教師として何よりも大切なことは授業中に予定した内容を消化し、一定の成果を上げることである。音声のような実技的な指導が中心になる授業では、十分に練習ができるようにクラスの定員を抑えなければならない。やむを得ず人数が多くなった場合には教える項目を減らさなければならない。担当クラスの人数でいうことが可能かを考え、その判断に基づいて授業の目標を決め、決めた以上はその目標を達成すること

である。そうすることで、生徒も達成感が得られ、教師に対する信頼、ひいては生徒の学ぶ意欲も高まるのである。

講课时要定下明确的目标。在一堂课开始的时候要把本课的目标告诉学生，这节课结束时要对预期目标的实现程度进行明确的评价。评价时，要看到每一个学生的进步，并注意不能挫伤学生的学习积极性或让他们感到难为情。让学生进行自我评价，也可以收到良好的效果。

作为教师，最重要的就是如何消化预定的内容并取得一定的成果。像语音课这样以实际技能指导为中心的课，为了获得充分的练习时间，必须限制班级的人数。如果不得不以大班上课时，则应减少授课内容。先要以所教班级的规模来确定一堂课能够讲授哪些内容，确定了目标之后就要尽可能去完成。这样，学生才会觉得学到了东西，从而对老师产生信任感，进而提高学习欲望。

3. 生徒の緊張を解くこと

発音の授業では、生徒はふだんより緊張するのが普通である。気持ちが緊張していると、筋肉も緊張するので、ふだんだったら出せる音も出せなくなることが多い。日本語の音声の一つの特徴は「なだらかさ」であるが、緊張して発音すると、音程が不安定になったり、氣息が強く出すぎたりする。また、緊張していると、発音を間違えた時の恥ずかしさも大きいので、発音の授業では教師は生徒が緊張しないように十分配慮する必要がある。

それにはまず、教師自身が和やかな雰囲気を作り出

すよう心がけることが大切である。授業中、発音を間違えた生徒がいてもほかの生徒が温かく見守ってやれるような雰囲気、指名された生徒がすぐに答えられるような積極的な雰囲気がないと、発音の授業はうまくいかない。生徒が伸びやかに話すことができるようにすることが、音声指導のポイントである。

生徒を緊張させないように、以下の事項に留意すべきである。

(1) 初めに発声練習などをいっせいにやらせて、声を出しやすくしてやること。最初に歌を歌わせるのも効果的である。

(2) 指名して発音させる場合、順番を考えて不公平のないようにすること。緊張しやすい生徒は早いうちにあてるようにする。あとになればなるほど緊張が高まるからである。

(3) 生徒の前に立って指名しないこと。それだけで緊張するからである。生徒の後ろや横から、座っている縦または横の列の順に「はい、次」「はい、～さん」というように指名するといい。間を置かずにテンポよく次々に指名すると緊張しなくなる。

(4) 必ず良いところを見つけてほめてやること。これは緊張を解くというよりは喜びと勇気を与え、次の練習をやりやすくするためである。ただしこの場合、できたところだけを正確に評価してほめることが大事である。「～さん、頭がいいですね」などと本人の能力を評価するようなほめ方は良くない。能力をほめると、ほめられない者が落ちこむことがあるからである。良くなった点を具体的にほめる。例えば、「今の『つ』の

発音はさっきのよりずっと良くなっている」「話し方がだいぶ日本語らしくなってきた」などとほめるのもいい。こうしてほめるのは、実は生徒の学習の進歩に常に強い関心を持っているということを示すためである。

在语音课上,通常学生们会比平时紧张。心情一紧张,肌肉自然也跟着紧张,放松时能发好的音往往也发不出来了。特别是日语语音的一大特征是“平坦”,紧张时过分用力,就会使音高不稳、气息过强。此外,如果情绪紧张,发错音时则会更加难为情。因此,在语音课上教师就要想办法能使学生放松情绪。

首先,教师自身努力创造出一个友好融洽的气氛,是十分重要的。课堂上有谁发音发错了,周围都能对之以友善的笑脸;班级整体有积极向上的气氛,使被叫到名字的同学能马上回答问题。没有这些,语音课是上不好的。总之,使学生能够自然放松地发言,是语音指导的关键。

使学生放松情绪的注意事项有如下一些:

- (1) 开始先一起进行发声练习,创造一个学生易于开口的气氛。开始上课时先唱一首歌,也是个好办法。
- (2) 点名让学生发音时,要考虑好顺序,做到公平对待。要先叫容易紧张的学生,因为越叫到后面就会紧张得越厉害。
- (3) 不要站在学生的面前叫他发音。他们会仅仅因为老师站在跟前而紧张。老师最好站在学生的后面或侧面,让学生按照竖排或横排的座位顺序依次回答,说:“好,下一个”,“好,某某”。以较快的节奏一个挨一个地叫,中间不留间隔,这样学生不容易紧张。
- (4) 一定要找出学生的优点,当场鼓励。这样做可以在缓解学生紧张情绪的同时给他们以喜悦和勇气,以便下面的练习

能够更容易做。但是，表扬时关键的是不能笼而统之，而是要指出好在哪里，给学生以准确的评价。类似“你真聪明！”这样进行素质判定的表扬话不好。因为，如果表扬了一个学生的素质，没有被表扬的学生就可能会情绪低落。要具体地指出得到改进的地方，比如“这个‘つ’的发音比刚才好多了”“说得比原来更像日语了”等等。这种鼓励的真意在于：老师每时每刻都对学生的进步抱有强烈的关心。

4. 口と耳の両方を訓練すること

外国語の発音が「きれいな」人は「耳がいい」といわれる。つまり、外国語の発音を正確に聞き取っていればこそ、自分の口で正しく真似ることができるわけである。「耳がいい」人はまた自分の再生した音と教師や録音テープのモデルの発音との違いを聞き分けることができるので、修正して目標言語に近づくことができる。

したがって、外国語を学ぼうとすれば、「いい耳」を作るための訓練をしなければならない。それにはまず、目標言語のモデルの発音を何度も聞き、シャワーのように浴びることが大切である。その時も、ただ漫然と聞くのではなく、母語との違いを意識しながら聞き、口に出して真似、繰り返すことが大切である。自分の発音を日本語母語話者に確認してもらうことも大事だが、いつも身近に日本語母語話者がいるわけではないので、自分の発音を録音してモデルの発音と比較して違いを確認することも大切である。

また、「いい耳」を作ると同時に、その言語を話す時に使う口の筋肉の訓練も欠かせない。特に間違った発

音が癖になっている学習者は、長期間にわたって、繰り返し練習することが必要である。

外语发音“漂亮”的人被认为“耳朵好”。就是说，只有能正确听辨外语发音，才能用自己的嘴模仿出来。“耳朵好”的人可以听得出自己的发音和老师或录音带里的标准发音有什么不同，因而能够自己纠正，从而使发音接近目标语言。

因此，在学习外语时，有必要把耳朵训练成“好耳朵”。首先，要多听所学语言的标准发音，把自己置身于充满外语语音的环境里。此时，不是心不在焉地听，而是要随时意识到外语和自己母语的不同，并反复地开口模仿。请以日语为母语的人来对自己的发音进行鉴定固然很重要，但往往我们身边并不一定有日本人，这时可以把自己的发音录下来和标准发音去比较，从中找出不同点。

还有，在训练“好耳朵”的同时，对说日语时常用部位肌肉的训练也是不可缺少的。特别是对错误的发音已成了习惯的学生，更要长期、反复地进行练习。

第2課

日本語らしく話すために

1. 日本語らしさとは

ある言語をその言語らしく話せるかどうか、つまり、その言語を母語とする人が聞いて自然に聞こえるかどうかは、個々の音を正しく発音しているかどうかよりも、文のアクセント、イントネーション、プロミネンス、リズムなど、いわゆるプロソディーで決まる。その言語らしいプロソディーで発話すると、たとえ個々の発音に多少の間違いがあっても、その言語を母語とする人にそれほど違和感を与えない。逆に、個々の発音が正しくても、プロソディーがその言語らしくない場合は、いわゆる「外国人訛り」に聞こえてしまうのである。外国語を学ぶ時、その言語のプロソディーを習得することは、その言語らしく話せるようになるための不可欠な条件である。

異なる言語はプロソディーも異なるが、日本語と中国語の場合も例外ではない。日本語と中国語では、音程、リズムのほか、氣息の強さも大きく異なっている。中国語話者が日本語を学ぶ場合、これらの違いを認識することが、まず、日本語らしく話す前提となる。

一种语言能否说得很地道（即在那种语言的母语使用者听来是否自然），词重音、语调、句重音、节奏等这些“韵律特征”所起的作用比单个的发音是否正确要大得多。如果你所说的话很接近该语言的韵律特征，那么即使个别单音有一些小错，也会让使用该语言的母语话者听起来不那么感到别扭。反之，即使每个单音都能发得很准，整体的语调如果不像，听来也会有很强烈的“外国人口音”。因此，在学习外语

時、重視那种语言的韵律特征，是学好该语言的不可缺少的条件。

语言不同，韵律特征也不相同。日语和汉语亦不例外。日语和汉语相比，除音高、节奏之外，气息的强度方面也相差很多。说汉语的人在学习日语时，首先认识到这些不同点，是学好日语的前提。

2. 气息の強さ

発音の基礎となるのは発声、つまり声の出し方である。日本語母語話者が日本語を話す時の气息は比較的弱い。その弱さは、日本人同士でも相手の話す内容が聞き取れないことがあるくらいである。これは特に若い女性に見られる現象である。それに比べて、中国語母語話者が中国語を話す時は明らかに气息が強く、呼吸量も多い。中国語母語話者が日本語を話す時は、气息が強くなりがちで、日本語母語話者が聞くとけんかをしているように聞こえることがある。発音、アクセント、イントネーションなどがすべて正確でも、气息が強いと日本語らしく聞こえないばかりでなく、話した内容もはっきり日本語母語話者に理解してもらえないこともある。中国人学習者には、日本語学習の第1段階から气息の強さを抑えて日本語を話すよう教えることが大切である。

发音的基础是发声，即用什么样的方法发出声音。以日语为母语的人说日语时，所用的气息较弱，弱到了甚至日本人之间谈话时也听不清对方的话。这一点在年轻女性中尤为明显。与此相反，汉语为母语的人在说汉语时所用的气息很

強, 呼吸流量也较大。中国人在说日语时容易用气过强, 以至于在日本人听来像是在吵架一样。即使发音、词重音、语调等完全正确, 气息过强, 听来也不大像日语。不仅如此, 有时还会妨碍日语母语话者正确理解对方谈话的内容。对于中国学生, 要从日语学习一开始就告诉他们: 说日语时要控制气息。

3. 音程について

中国語を話す時と日本語を話す時では、音程つまり声の高さも異なる。中国語には四声があり、上がり下がりが大きく、音域が広い。つまり、高い音と低い音の差が大きい。一方、日本語の音域は狭い。つまり、日本語の高い音は中国語一声の高さに届かず、日本語の低い音は中国語の三声ほど低くない。日本語が静かで単調に聞こえるのは、一つには、このような音域の狭さによる。また、音に対する美意識の違いも問題になる。一般に中国人は高く透き通った声に美を感じるが、日本人は高い声が苦手で、高い声を表現する言葉はおおむね否定的に扱われている。例えば「声がキンキンしている」「かん高い声」などと表現する。日本の男性は、感情が激しても声は高くなり、むしろ低くなるのが普通である。怒って「もう一度言ってみろ」と言う時、音程が高くなると、日本人には滑稽に聞こえる。また、例えば「先生、大変です」と言う場合も、声が高いと動転しているように聞こえる。そういう時、日本語では「声がうわずっている」と言うが、この表現は沈着さ、冷静さを欠いていることを意味する。つまり、好ましくない声なのである。緊急事

態を伝えようとする時は、「声を落として」、つまり音程を下げて、全体の拍を凝縮して言わなければならない。したがって、中国語母語話者が日本語を話す時には、音程では次の点に注意して話すことが望ましい。声は高すぎても低すぎてもいけないということ、そして全体に高低がなだらかになるようにすること。

音程はアクセント、イントネーション、プロミネンスとも関係があるが、中でもアクセントと四声の違いを正しく理解する必要がある。日本語のアクセントには弁別機能があるが、しかし、「あめ(雨)」「あめ(飴)」などのような違いは、文脈があればアクセントを間違えても意味を理解するのにあまり支障がない。アクセントはむしろその統語機能、すなわち意味の単位(語や文節)の切れ目を示す機能において重要な役割を果たす。例えば、「ちゅうごく(中国)」と「じん(人)」、「とうきょう(東京)」と「だいがく(大学)」、「たべる(食べる)」と「いる」をそれぞれ一つの意味単位にすると、アクセントは「ちゅうごくじん(中国人)」「とうきょうだいがく(東京大学)」「たべている(食べている)」となる。日本語らしく話すためには、複合語や名詞句のアクセントの統語機能を中心に練習する必要がある。

说日语和说汉语时, 音程(即音的高低)也不相同。汉语有“四声”, 音高的上升和下降幅度大, 音域较宽。就是说, 音高的最高点和最低点拉开的距离较大。相反, 日语的音域则较窄。具体而言, 日语的高音达不到汉语第1声那么高, 低音也低不到汉语第3声那么低。日语听起来安静而单调, 就

是受到了音域窄的影响。另外,对音高的审美观不同,也是一个问题。一般地说,中国人以声音高亢响亮为美,而日本人则听不惯高音,表达高音的词语大多含有贬义,比如用“声がキンキンしている(尖声尖气的)”、“かん高い声(尖嗓子)”等说法来表达。日本男子在情绪激动时音调一般不升反降,只是音量会增大。如果发怒时把“もう一度言ってみろ(你敢再说一遍?)”说得调子很高,在日本人听来是很滑稽的。再如,说“先生、大変です(老师,不好了!)”如果声音很高,就会显得说话人惊慌失措。这种发音日语叫做“声がうわずっている(声音发飘)”,意思是说失去了应有的沉着冷静,总之那声音是不受欢迎的。在发生紧急情况时,报信人要“声を落として(声音沉稳地)”,就是说要把调子降低些,把每一个音拍都发得清楚、紧凑。因此,以汉语为母语的人说日语时,在音高方面最好注意以下几点:首先要使音高整体上既不过高,也不过低;此外,整体的调子要自然平坦,不能起伏过大。

音高和词重音、语调、句重音也很有关系,其中要特别注意正确理解词重音和汉语四声的区别。日语的词重音虽然也有“别义功能”(即区别意义的功能),但是像“あめ(雨)/あめ(飴)”这样的语义区别,在语境中即使把重音发错了也不会成为很大的问题。词重音更重要的作用在于它的“分界功能”,即它用来划分语义单位(词或词组)的界限,例如“ちゅうごく(中国)”和“じん(人)”、“とうきょう(東京)”和“だいがく(大学)”、“たべる(食べる)”和“いる”等分别作为一个语义单位(复合词)使用时,其重音分别为“ちゅうごくじん(中国人)”、“とうきょうだいがく(東京大学)”、“たべている(食べている)”。要想日语说得地道,就要以名词短语或复合词的“分界功能”为中心来

练习日语的词重音。

4. リズムについて

中国語と日本語ではリズムも異なる。中国語のリズムは「音節」が基本であるが、日本語のリズムの基本は「拍」である。まず、音節と拍について説明しておこう。

「音節」の定義は諸説あるが、もともと英語のシラブル (syllable) の訳語で、ある日本語の国語大辞典では、「音節とは、それ自身の中に何らの切れ目が感じられず、その前後に切れ目を感じられる単音、または単音連続である」と説明されている。中国語でいうと、16、17 頁に掲載する中国語基本音節表 (表 1) の一マスごとの音が 1 音節である。

日本語の音節と中国語の音節の大きな違いは、音節を連続して発音する時、日本語ではその長さを等分に切ろうとしていることである。ゆっくり発音するとその特徴がなおはっきりする。連続して発音する時、仮名 1 文字 (拗音の場合は 2 文字) を大体同じ長さで発音する。この時間的長さの単位を音声学的にはモーラといい、日本語では「拍」といつている。この「拍」は時間を等分に切る単位であって、音節とは観点を異にしている。特殊拍と呼ばれている長音 (ー)、促音 (っ)、撥音 (ん) も 1 拍と数えられる。例えば、長音、促音、撥音が、前に来る音といつしよになって、「キー」「キッ」「キン」となる時、それぞれ 2 拍分の長さで発音する。しかし「音節」単位で区切ると、それぞれ 1 音節として数える。このように 2 拍で構成される音節

は「長音節」と呼ばれる。

日本語の音を習得する場合、「音節」の概念はさほど重要ではない。なぜなら、日本語のアクセントとリズムの基本をなすのは「拍」なので、日本語の音声や発音を教えるにあたっては「拍」が重要な単位となる。この拍の感覚を養うことが、日本語を日本語らしく発音するポイントとなる。

さて、この「拍」と中国語の「音節」との間に発音する時どういう違いがあるか、観察してみよう。例えば、「安」という漢字は、中国語では [an] と1音節に発音するが、日本語の「安」は「あ」「ん」と2拍になる。そして、日本語の「拍」は中国語の「音節」に比べると小さくて短い。したがって、各拍が1音の場合は短くて不安定なので、話す時は2拍が1単位となるのが普通である。例えば、「私は学生です」は「わたしは がく せい です」というようになる。「私」を「わたくし」と言う場合、「わた くし は○ がく せい です」というように、「○」の部分に1拍分の「間」を置くことになる。この「間」の置き方も、日本語らしいリズムを作る大事な要素なのである。

汉语和日语在节奏方面也是不同的。汉语的节奏以“音节”为基本单位，而日语的基本节奏单位是“拍（音拍）”。这里我们先来解释一下“音节”和“音拍”。

关于“音节”，不同的学术流派有不同的定义。但它是从英语 syllable 翻译过来的。按照日本《国语大辞典》的说法，“在其自身中感觉不到分界，而在它的前后都感觉到分界的单音或单音的连缀，称作音节”。就汉语而言，16、17 页的汉

表1：中国語基本音節表

	a	o	e	ê	-i	er	ai	ei	ao	ou	an	en	ang	eng	ong	i	ia	iao
	a	o	e	ê		er	ai	ei	ao	ou	an	en	ang	eng		yi	ya	yao
b	ba	bo					bai	bei	bao		ban	ben	bang	beng		bi		biao
p	pa	po					pai	pei	pao	pou	pan	pen	pang	peng		pi		piao
m	ma	mo	me				mai	mei	mao	mou	man	men	mang	meng		mi		niao
f	fa	fo						fei		fou	fan	fen	fang	feng				
d	da		de				dai	dei	dao	dou	dan	den	dang	deng	dong	di		diao
t	ta		te				tai		tao	tou	tan		tang	teng	tong	ti		tiao
n	na		ne				nai	nei	nao	nou	nan	nen	nang	neng	nong	ni		niao
l	la		le				lai	lei	lao	lou	lan		lang	leng	long	li		liao
z	za		ze		zi		zai	zei	zao	zou	zan	zen	zang	zeng	zong			
c	ca		ce		ci		cai		cao	cou	can	cen	cang	ceng	cong			
s	sa		se		si		sai		sao	sou	san	sen	sang	seng	song			
zh	zha		zhe		zhi		zhai	zhei	zhao	zhou	zhan	zhen	zhang	zheng	zhong			
ch	cha		che		chi		chai		chao	chou	chan	chen	chang	cheng	chong			
sh	sha		she		shi		shai	shei	shao	shou	shan	shen	shang	sheng				
r			re		ri				rao	rou	ran	ren	rang	reng	rong			
j																ji	jia	jiao
q																qi	qia	qiao
x																xi	xia	xiao
g	ga		ge				gai	gei	gao	gou	gan	gen	gang	geng	gong			
k	ka		ke				kai	kei	kao	kou	kan	ken	kang	keng	kong			
h	ha		he				hai	hei	hao	hou	han	hen	hang	heng	hong			

	ie	iu	ian	in	iang	ing	iong	u	ua	uo	uai	ui	uan	un	uang	ueng	ü	üe	üan	ün
	ye	you	yan	yin	yang	ying	yong	wu	wa	wo	wai	wei	wan	wen	wang					
	bie		bian	bin		bing		bu												
	pie		pian	pin		ping		pu												
	mie	miu	mian	min		ming		mu												
								fu												
	die	diu	dian			díng		du		duo		dui	duan	dun						
	tie		tian			ting		tu		tuo		tui	tuan	tun						
	nie	niu	nian	nin	niang	ning		nu		nuo			nuan							
	lie	liu	lian	lin	liang	ling		lu		luo			luan	lun						
								zu		zuo		zui	zuan	zun						
								cu		cuo		cui	cuan	cun						
								su		suo		sui	suan	sun						
								zhu	zhua	zhuo	zhuai	zhui	zhuan	zhun	zhuang					
								chu	chua	chuo	chuai	chui	chuan	chun	chuang					
								shu	shua	shuo	shuai	shui	shuan	shun	shuang					
								ru	rua	ruo		rui	ruan	run						
	jie	jiu	jian	jin	jiang	jing	jiong										ju	jue	juan	jun
	qie	qiu	qian	qin	qiang	qing	qiong										qu	que	quan	qun
	xie	xiu	xian	xin	xiang	xing	xiong										xu	xue	xuan	xun
								gu	gua	guo	guai	gui	guan	gun	guang					
								ku	kua	kuo	kuai	kui	kuan	kun	kuang					
								hu	hua	huo	huai	hui	huan	hun	huang					

语音节表(表1)中每一格里的单音连缀就是一个音节。

日语的音拍和汉语音节的最大不同是,在连续发音时,日语的每一个音拍总是要保持大体相等的长度。当语速较慢时,这一特征会更加明显。连续发音时,日语每一个假名字母(拗音则为2个假名)的长度都大体相同。语音学上把这种时长单位叫做“莫拉”,日语则称作“はく(音拍)”。“音拍”所具有的“等时长性”是与“音节”对语音的观察角度不同的。一般称作“特殊音拍”的长音(ー)、促音(ッ)、拨音(ン)等也被看做一个音拍。例如,当长音、促音、拨音等跟在其他音的后面成为“キー”、“キッ”、“キン”时,应分别被发成两个音拍的长度。但是,如果用“音节”的单位来切分的话,上面的“キー”、“キッ”、“キン”等各为一个音节。像这样由两个音拍构成的音节叫做“长音节”。

学习日语时,“音节”的概念显得不那么重要。因为构成日语词重音和节奏的基本单位是音拍,所以在教日语的语音或发音时,音拍就成了一个重要的单位。培养音拍的节奏感,是能否把日语说得纯正的关键所在。

下面,我们就来观察一下音拍和汉语的音节在发音时有什么不同。例如汉字“安”,汉语读做一个音节[an],而日语的“安”则是“あ”和“ん”两个音拍,同时日语的音拍要比汉语的音节短一些。这样,由于每个音拍为一个音显得短而不稳,因此在说话时一般是以2音拍为一个单位。比如“私は学生です”说成“わたしはがくせい です”。当把“私”读做“わたくし”的时候,读做“わたしはがくせい です”,要在“○”处空一拍。在什么地方停顿,也是构筑地道的日语节奏的重要因素。

第3課

日本語の「五十音図」

1. 「五十音図」は「拍」の 基本

日本語を学習する場合、「五十音図」(表2)と呼ばれる表を用いるのが普通である。日本語母語話者は、小学校に入学する前から「五十音図」に慣れ親しんでいるので、子供から大人まで五十音順どおり言えない日本人はいない。国語辞典の項目の配列もこの順になっており、日常生活で用いる名簿やリストなどの配列も五十音順を採用するのが普通である。子供は「五十音図」で、平仮名、カタカナを習得すると同時に、「書かない、書きます、書くらしい、書くこと、書けば、書け」のような五段動詞の活用も楽に覚えることができる。何よりも重要なことは、これによって日本語の拍の構造を把握できることである。

「五十音図」は横の「行」と縦の「段」からなっている。「段」の名前は最初の「行」の「あ・い・う・え・お」で表され、「行」の名前は「行」の最初の音「あ・か・さ・た・な・は・ま・や・ら・わ」で表されている。これは「子音+母音」「半母音+母音」の組み合わせからできている日本語の拍の基本構造を表している。厳密にいうと、この「五十音図」は日本語の拍をすべて含んだものではない。濁音、半濁音および拗音を含む日本語の拍をすべて含んでいるのが「拡大五十音図」(表3)である。この「拡大五十音図」には鼻濁音や特殊拍の長音、促音、撥音も加えられている。言葉は時代とともに変化するものであるが、日本語にカタカナを用いて表記する外来語が急増するにつれて、「グァ」「ジェ」「ティ」「ニエ」のように、「拡大五十音図」に

ない表記(拍)も多く見られるようになった。したがって、日本語の音声を勉強する場合には、現代日本語の拍をすべて含んだ「現代日語音拍総表」(表4)のような表に基づいて学ぶことが大切である。

在学习日语时,一般使用称作“五十音图”(表2)的语音表。以日语为母语的人也一样,他们在上小学以前就已经熟悉了“五十音图”,因此从儿童到成人,日本人里无人不知五十音图,没有人不会说出五十音的顺序。国语辞典也是按照五十音图来排列词条顺序,日常生活中的名册及清单等一般也都是以五十音图排序的。孩子们按照“五十音图”来学习平假名和片假名。同时,记住了五十音的顺序,五段动词的活用形“書かない、書きます、書くらしい、書くこと、書けば、書け”也就很容易记住了。而且,更主要的是,我们还可以通过“五十音图”来掌握日语音拍的结构。

五十音图是由横行的“行”和竖行的“段”组成的。各“段”的名称以第一“行”的假名“あ・い・う・え・お”来命名,“行”的名称以各“行”的第一个假名“あ・か・さ・た・な・は・ま・や・ら・わ”来表示。这样的“五十音图”体现了日语音拍的基本结构是以“辅音+元音”或“半元音+元音”组成的。严格地说,“五十音图”并没有包括日语的所有音拍。将“浊音”、“半浊音”及“拗音”也包括进来的是“扩大的五十音图”(表3)。此外,还可以将“鼻浊音”及作为特殊音拍的“促音”、“长音”、“拨音”等也包括进来。但是,语言是随时代变化的。随着日语中用片假名拼写的外来语迅速增加,“グァ”、“ジェ”、“ティ”、“ニェ”等“扩大的五十音图”中没有的拼写形式(音拍)也开始应用起来。因此,有必要按照把现代日语所有音节都

囊括其中的“现代日语音拍总表”（表4）来进行教学。

2. 「五十音図」で拍感覚を

伝統的な「五十音図」と「拡大五十音図」を暗誦すれば、効果的に日本語のリズム（拍）感覚を身につけることができる。暗誦する時は、1拍1拍を同じ長さで、リズムカルに発音することが大切である。また、日本語の「拍」は小さく短いので、1拍1拍を長く延ばさないように、歯切れよく発音しなければならない。日本語の拍はアクセントの習得とも深く関わっているので、四声の感覚で音を上げたり下げたりして暗誦しないよう指示する必要がある。

背诵传统的“五十音图”及“扩大的五十音图”，对于掌握日语的节奏感（音拍感）有着很大的帮助。背诵的时候，每个音拍都尽量发得长度相等而富有节奏，是很重要的。此外，由于日语的音拍很短，因此发音时要一拍一断，不要把它们拉长。掌握日语的音拍与学习词重音也有很大关系，因此背诵时不能按照汉语四声的感觉使日语的音拍带上升调或降调。

表2：五十音図

段 行	あ段 ア段	い段 イ段	う段 ウ段	え段 エ段	お段 オ段
あ行 ア行	あ ア	い イ	う ウ	え エ	お オ
か行 カ行	か カ	き キ	く ク	け ケ	こ コ
さ行 サ行	さ サ	し シ	す ス	せ セ	そ ソ
た行 タ行	た タ	ち チ	つ ツ	て テ	と ト
な行 ナ行	な ナ	に ニ	ぬ ヌ	ね ネ	の ノ
は行 ハ行	は ハ	ひ ヒ	ふ フ	へ ヘ	ほ ホ
ま行 マ行	ま マ	み ミ	む ム	め メ	も モ
や行 ヤ行	や ヤ	(い) (イ)	ゆ ユ	(え) (エ)	よ ヨ
ら行 ラ行	ら ラ	り リ	る ル	れ レ	ろ ロ
わ行 ワ行	わ ワ	(ゐ) (ヰ)	(う) (ウ)	(ゑ) (ヱ)	を ヲ
撥音	ん ン				

表3：拡大五十音図

段 行	あ (ア) 段	い (イ) 段	う (ウ) 段	え (エ) 段	お (オ) 段
あ/ア行	あ/ア	い/イ	う/ウ	え/エ	お/オ
か/カ行	か/カ	き/キ	く/ク	け/ケ	こ/コ
さ/サ行	さ/サ	し/シ	す/ス	せ/セ	そ/ソ
た/タ行	た/タ	ち/チ	つ/ツ	て/テ	と/ト
な/ナ行	な/ナ	に/ニ	ぬ/ヌ	ね/ネ	の/ノ
は/ハ行	は/ハ	ひ/ヒ	ふ/フ	へ/ヘ	ほ/ホ
ま/マ行	ま/マ	み/ミ	む/ム	め/メ	も/モ
や/ヤ行	や/ヤ		ゆ/ユ		よ/ヨ
ら/ラ行	ら/ラ	り/リ	る/ル	れ/レ	ろ/ロ
わ/ワ行	わ/ワ				
が/ガ行	が/ガ	ぎ/ギ	ぐ/グ	げ/ゲ	ご/ゴ
ざ/ザ行	ざ/ザ	じ/ジ	ず/ズ	ぜ/ゼ	ぞ/ゾ
だ/ダ行	だ/ダ	ぢ/ヂ	づ/ヅ	で/デ	ど/ド
ば/バ行	ば/バ	び/ビ	ぶ/ブ	べ/ベ	ぼ/ボ
ぱ/パ行	ぱ/パ	ぴ/ピ	ぷ/プ	ぺ/ペ	ぽ/ポ
きゃ/キャ行	きゃ/キャ		きゅ/キュ		きょ/キョ
しゃ/シャ行	しゃ/シャ		しゅ/シュ		しょ/ショ
ちゃ/チャ行	ちゃ/チャ		ちゅ/チュ		ちょ/チョ
にゃ/ニヤ行	にゃ/ニヤ		にゅ/ニユ		によ/ニョ
ひゃ/ヒヤ行	ひゃ/ヒヤ		ひゅ/ヒユ		ひょ/ヒョ
みゃ/ミヤ行	みゃ/ミヤ		みゅ/ミユ		みょ/ミョ
りゃ/リヤ行	りゃ/リヤ		りゅ/リュ		りょ/リョ
ぎゃ/ギャ行	ぎゃ/ギャ		ぎゅ/ギユ		ぎょ/ギョ
じゃ/ジャ行	じゃ/ジャ		じゅ/ジュ		じょ/ジョ
ぢゃ/ヂヤ行	ぢゃ/ヂヤ		ぢゅ/ヂユ		ぢょ/ヂョ
びゃ/ビヤ行	びゃ/ビヤ		びゅ/ビユ		びょ/ビョ
ぴゃ/ピヤ行	ぴゃ/ピヤ		ぴゅ/ピユ		ぴょ/ピョ
特殊拍	長音 (ー)		促音 (ッ)		撥音 (ン)

表4：現代日語音拍総表

元音		a	i	u	e	o
輔音	零輔音	あ	い	う	え	お, を
半元音	j	や		ゆ	イエ	よ
	w	わ	ウィ		ウエ	ウオ
鼻音	m	ま		む	め	も
	m'	みや	み	みゆ		みよ
	n	な		ぬ	ね	の
	n	にや	に	にゆ	ニエ	によ
	p	ぱ		ぷ	ぺ	ぽ
塞音	p'	びや	び	びゆ		びよ
	b	ば		ぶ	べ	ぼ
	b'	びゃ	び	びゅ		びょ
	t	た		トゥ	て	と
	t'		テイ	テュ		
	d	だ		ドウ	で	ど
	d'		デイ	デュ		
	k	か		く	け	こ
	k'	きや	き	きゆ	キエ	きよ
	k''	クア	クイ			クオ
	g	が		ぐ	げ	ご
	g'	ぎや	ぎ	ぎゆ	ギエ	ぎよ
	g''	グア				グオ
	Φ	ファ		ふ	フェ	フォ
	Φ'		フィ	フュ		
擦音	s	さ		す	せ	そ
	s'		スイ			
	ɕ	しゃ	し	しゅ	シェ	しよ
	ɸ	ひや	ひ	ひゅ		ひよ
	h	は			へ	ほ
塞擦音	ts	ツア		つ	ツエ	ツオ
	ts'		ツイ			
	tɕ	ちゃ	ち	ちゅ	チエ	ちよ
	dʒ	じゃ	じ, ぢ	じゅ	ジェ	じよ
	ɕʰ	じゃ	じ, ぢ	じゅ	ジェ	じよ
閃音	r	ら		る	れ	ろ
	r'	りや	り	りゅ		りよ
特殊音拍	長音/R/ (ー)		促音/Q/ (ッ)		撥音/N/ (ン)	

(転引自朱春跃《语音详解》pp. 24-25, 外研社, 2001)

注：表4の中国語の音声学用語と日本語の音声学用語の対応は以下のとおりである

元音：母音
 輔音：子音
 半元音：半母音
 鼻音：鼻音
 塞音：破裂音
 促音：促音

擦音：摩擦音
 塞擦音：破擦音
 閃音：弾き音
 特殊音拍：特殊拍
 長音：長音
 撥音：撥音

第1課

母音と半母音の指導

日本語を正しく発音するには、何よりもまず五つの母音、すなわち五十音図の「あ行」の「あ・い・う・え・お」をしっかり習得しなければならない。なぜなら、「か行」以下の音は子音とこれらの母音が組み合わさってできているからで、母音は日本語の発音の基礎といえる。母音が正しく発音できないと、「か行」以下の音も歪んだ音になる恐れがある。また、母音は単独で意味語を作るなど、意味伝達の上で果たす役割も大きいので、言語音としてはっきり発音するよう指導しなければならない。「や行」の「や・ゆ・よ」と「わ行」の「わ」の始まりの音 [j] [w] は半母音であるが、「や・ゆ・よ」は後の拗音の習得に影響するので、母音同様、最初にしっかりと習得しておかなければならない重要な音である。

日本語の母音に似た音は中国語にもあるので、日本語学習者はその似た音で代用しがちであるが、似て異なるものだという意識を持つことが大切である。日本語の母音を発音する時は、中国語の似た音に比べて、縦方向への口の開き、横後方への口の引き、舌の上下変動の幅、唇の丸みの幅、唇や舌の緊張度をいずれも小さくすること、母音がつながっている場合も、一般に各母音を互いに同化させることはあまりなく、つまり、漢語の複合母音のように発音せずに、個別の音価を保ちながら発音するよう留意しなければならない。

要使日语的发音发得正确，最重要的是首先把5个元

音（即五十音图中“あ行”的あ、い、う、え、お）扎扎实实地学好。这是因为，“か行”以下的音都是辅音与这几个元音组合而成的，元音可以说是日语发音的基础。如果元音发得不正确，“か行”以下的所有音都会有问题。再有，元音还可以单独成为有意义的词，它在语义传达上也发挥着很大的作用，因此，作为语音，一定要指导学生发清楚。“や行”的“や、ゆ、よ”和“わ行”中“わ”的起始音 [j] [w] 为半元音，而“や、ゆ、よ”会对日后拗音的学习产生影响，因此半元音与元音一样，也是一开始就必须学好的一组重要的音。

在汉语中也有和日语元音类似的音，所以日语学习者常会用汉语的类似发音来代替日语发音。但是，即使有些相似，却是根本不同的。让学生认识到这一点非常重要。与汉语中类似发音相比，日语元音的发音在口的纵向开度及横向开度、舌头的上下运动幅度、圆唇度、唇和舌的肌肉紧张度等所有方面都小于汉语，并且在元音和元音相连时，它们之间一般不大发生同化。也就是说，不是像汉语“复合韵母”那样发音，而是保留各自的音值不变。

1. 「あ」と「い」は口の 開きを抑えて

日本語の「あ」は中国語の「啊」より口の開きが小さく、日本語の「い」は中国語の「衣」より口の引きが弱いということがわかっていれば、この二つの音は中国語母語話者にとって、そう難しくない。

只要搞清楚日语的“あ”不像汉语“啊”那样嘴张得那么大，“い”不像汉语“衣”那样嘴咧得那么开，这两个音对于说汉语的人来说并不很难。

2. 「う」は円唇音にならないように

五つの母音のうち、特に「う」の発音に注意する必要がある。日本語の「う」は中国語の円唇母音 [u] とは異なり、唇を丸めない非円唇母音であることを教える。この時、平口であっても唇の筋肉が緊張していると不自然な音になるので、弛緩したままの状態が発音させることが大切である。

在5个元音中, 要特别注意“う”的发音。要告诉学生, 日语的“う”和汉语圆唇的 [u] 不同, 是不圆唇元音, 发音时不要把嘴唇撮圆。发音时, 即使不圆唇, 如果唇部肌肉紧张, 发出来的音也会不自然, 因此在放松的状态下发音是十分重要的。

3. 「え」と「お」の長音に注意

「え」も中国語母語話者には難しい音である。「え」を発音する時は、口の開きを「い」よりやや開く程度に、舌の位置を「い」よりやや下げる程度にして、短く「え」と発音するようにする。口を開きすぎて [ɛ] のようなあいまい母音にならないように注意すること。また、中国語の複合母音 [ei] で代用しないこと。「お」もこの音だけを短く [o] と発音するのは難しく、[ou] になりやすい。特に「え」と「お」が長音になった場合、[ei] [ou] になりやすい。例えば「英語 (えいご)」 「王 (おう) さん」の場合がそれにあたる。これは、中国語の複合母音の干渉が原因と思われる。直すには、音を延ばす途中で舌の位置を動かさないように指示する方法がある。

“え”也是中国学生难发的一个音。发“え”音的时候，开口度比“い”略大一些，舌位也比“い”略降低一点儿。要注意不能发得过长。还要注意不要因为开口过大而发成语音较模糊的 [ɛ]。不要用汉语的复合元音 [ei] 来发日语的单元音“え”。“お”也不容易发成较短的、音值固定的 [o]，而是容易发成 [ou]。特别是在“英語（えいご）”、“王（おう）さん”等情况下“え”、“お”成为长音时，更容易被发成 [ei]、[ou]。这是汉语复合元音对日语造成的影响。纠正时，可以指导学生把音拖长一些来发，同时不要在中途改变舌头的位置。

4. 複合母音にならないように

日本語の母音を連続して発音する時は、例えば、「愛（あい）」「わいわい」「追う（おう）」「言う（いう）」「祝い（いわい）」「杖（つえ）」「対（つい）」などの場合、中国語のそのほかの二重母音 [ai] [ua] [ou]、三重母音 [iou] [uai] [uei] などの干渉にも気をつけなければならない。また、母語の音節「en」「eng」「uen」「ueng」の干渉で、特に撥音「ん」の前の母音「え」と「お」があいまい母音の [ə] や [uə] になりやすい。例えば「二千元（にせんえん）」「困難（こんなん）」のような場合である。また、同じように、音節「iong」の干渉で「ん」の前の「よ」が「ゆ」になることも多い。例えば「四（よん）」の場合である。これらの場合には、それぞれの音が独立していることを意識すること、「あ・い」「こ・ん・な・ん」のように1拍1拍区切って正しく発音した感覚をつかんだ後、その音価を変えないように連続して発音してみることも解決法の一つとして

有効である。

在连续发日语元音如“愛(あい)”、“わいわい”、“追う(おう)”、“言う(いう)”、“祝い(いわい)”、“杖(つえ)”、“対(つい)”时, 要注意汉语中其他二合元音 [ai] [ua] [ou]、三合元音 [iou] [uai] [uei] 的干扰。另外, 受母语音节 “en” “eng” “uen” “ueng” 的影响, 特别是在拨音 “ん” 前的元音 “え” 和 “お” 容易被发成语音模糊的 [ə] 或 [uə]。例如 “二千元(にせんえん)”、“困難(こんなん)” 等。同样, 受音节 “iong” 的影响, “ん” 前面的 “よ” 容易发成 “ゆ”, 如 “四(よん)” 等。这时, 可以用下面的方法纠正: 让学生意识到每一个单音都是独立的, 在他们能够像 “あ・い”、“こ・ん・な・ん” 那样一个音拍一个音拍地正确发音以后再来发连续音, 并且在发一个音时不要中途改变音值。

コラム1 朝鮮語の母音との比較

朝鮮語話者を対象に日本語の母音を教える場合、日本語の母音が朝鮮語の母音とどう対応するのか、またどこがどう違うのかをまず頭に置いておかなければならない。

日本語と朝鮮語の個々の母音を対応させると次のようになる。

日本語	朝鮮語
あ	←→ 「아 [a]
い	←→ 「이 [i]
う	←→ 「우 [u]」 「우 [u]
え	←→ 「애 [ɛ]」 「에 [e]
お	←→ 「오 [o]」 「어 [ɔ]

日本語の「う」「え」「お」に対応するものが複数あり、そこが問題になる。

朝鮮語の母音についてもう少し詳しく解説しておくことにする。

아 [a]: 「あ」とほとんど同じ。「아」のほうが口の開け方がやや大きい。

이 [i]: 「い」とほとんど同じ。「이」のほうが口の左右への引き方がやや強い。

우 [u]: 「う」と同じように口を左右に強く引く。その口の形で「う」と発音する。

우 [u]: 唇を丸めて先に突き出すようにする。その口の形で「う」と発音する。

애 [ɛ]: 口を大きく開けて「え」と発音する。口の形は「아」と同じ。

에 [e]: 「え」よりは「いえ」という感じ。「이」と同じ口の形で「え」と発音する。

오 [o]: 唇を丸めて先に突き出すようにする。その口の形で「お」と発音する。口の形は「우」と同じ。

어 [ɔ]: 口を大きく開けて「お」と発音する。口の形は「아」と同じ。

在以朝鮮語話者为对象教授日语元音时, 对于日语的元音和朝鲜语的元音是什么样的对应关系, 它们又有哪些不同, 脑子里应该首先有概念。

把日语和朝鲜语的元音——对应起来, 大概是下面的样子:

日语	朝鮮語
あ	←→ “아 [a]”
い	←→ “이 [i]”
う	←→ “우 [u]” “우 [u]”
え	←→ “애 [ɛ]” “에 [e]”
お	←→ “오 [o]” “어 [ɔ]”

这里面, 与日语“う”“え”“お”对应的朝鲜语元音不止一个, 这是问题的原因。

让我们更详细地解释一下朝鲜语的元音:

아 [a]: 与“あ”基本相同。发“아”时口的纵向开度略大。

이 [i]: 与“い”基本相同。发“이”时口的横向开度略大。

우 [u]: 和“이”一样, 口的横向开度较大。用这样的口形发的“う”音。

우 [u]: 嘴唇撮圆, 并且向前突出。用这样的口形发的“う”音。

애 [ɛ]: 张大了嘴发“え”音。口形与“아”相同。

에 [e]: 与其说是“え”, 更接近“いえ”。用和“이”相同的口形发出的“え”音。

오 [o]: 嘴唇撮圆, 并且向前突出。用这样的口形发的“お”音。口形与“우”相同。

어 [ɔ]: 张大了嘴发“お”音。口形与“아”相同。

5. 半母音は短く速く発音させる

中国語話者には、「や」「ゆ」「よ」を短い1音節として発音する習慣がない。中国語の「鴨」「优」「腰」のような複合母音の音で発音する傾向があるので、これらの音より短く速く発音するように練習させる。また「い」の場合と同じように、唇を引きすぎないように注意させる。半母音「わ」を発音する要領も「や」「ゆ」「よ」と同様であるが、「わ」の場合は「う」と同じように、唇を丸めず、緊張させないことがポイントである。

汉语話者不习惯把“や”“ゆ”“よ”发成短的音拍，他们常常用汉语“鸭”“优”“腰”那样的复合元音来发音。要训练他们把半元音发得快些、短些。还要注意，像发“い”音时一样，不要把嘴唇过于往两边拉开。含有半元音的“わ”也与“や”“ゆ”“よ”发音要领相同，但发“わ”时和“う”一样，即不要圆唇，发音器官不能紧张。

コラム2 朝鮮語の半母音との比較

朝鮮語の半母音には下に挙げたもののほかに、「애 [jɛ]」「예 [je]」(以上 y 系)、「위 [wo]」「왜 [we]」「웨 [we]」「위 [wi]」(以上 w 系)があるが、ここでは日本語の音声指導上問題となる部分を取り上げておく。

日本語と朝鮮語の個々の半母音を対応させてみると次のようになる。

日本語	朝鮮語
や←-----→	「야 [ja]
ゆ←-----→	「유 [ju]
よ←-----→	「요 [jo]」「여 [jo]
わ←-----→	「와 [wa]

朝鮮語の半母音について、もう少し詳しく解

朝鮮語の半元音除了下面列出的以外，还有“애 [jɛ]”“예 [je]”（以上 y 系）和“위 [wo]”“왜 [we]”“웨 [we]”“위 [wi]”（以上 w 系）等，但在这里我们只涉及和日语语音指导有关系的部分。

把日语和朝鲜语的半元音——对应起来，大概是下面的样子：

日语	朝鮮語
や←-----→	「야 [ja]
ゆ←-----→	「유 [ju]
よ←-----→	「요 [jo]」「여 [jo]
わ←-----→	「와 [wa]

让我们更详细地解释一下朝鲜语的半元音：

説しておくことにする。

야[ja]:「や」とほとんど同じ。「야」のほうが口の開け方がやや大きい。

유[ju]:唇を丸めて先に突き出すようにする。その口の形で「ゆ」と発音する。

요[jo]:唇を丸めて先に突き出すようにする。その口の形で「よ」と発音する。口の形は「유」と同じ。

여[jo]:口を大きく開けて「よ」と発音する。口の形は「아」と同じ。

와[wa]:「わ」とほとんど同じ。「와」のほうが口の開け方がやや大きい。

야[ja]:和“や”基本相同。发“야”时口的纵向开度略大。

유[ju]:嘴唇撮圆,并且向前突出。用这样的口形发的“ゆ”音。

요[jo]:嘴唇撮圆,并且向前突出。用这样的口形发的“よ”音。口形和“유”相同。

여[jo]:张大了嘴发“よ”音。口形与“아”相同。

와[wa]:和“わ”基本相同。发“와”时口的纵向开度略大。

第2課

有声音・無声音の指導

日本語の子音には清音、濁音の区別がある。清音・濁音というのは、音声学でいう無声子音・有声子音のことである。ここで問題になるのは、中国人学習者の場合、清濁、つまり無声子音と有声子音の対立を自国語の有気音と無気音の対立に置き換えてしまう傾向があることである。朝鮮語を母語とする学習者にも同じような干渉が起こる。

例えば、「蚊が」と発音する時、中国語母語話者は「か」を有気音の [kʰa]、「が」を無気音の [ka] で発音してしまうのである。中国語の有気音 [kʰa] と無気音の [ka] は、ピンインでは「ka」「ga」と表記することになっているので、「か」と「が」のローマ字表記である「ka」「ga」と混同されやすく、いつそうまぎらわしくなっている。

日語的辅音中有清音和浊音的区别。清音、浊音在语音学上也叫做“不带音”“带音”。这里的问题是，中国学生大多用本国语中的“送气音”、“不送气音”来代替日语中清音和浊音的对立。以朝鲜语为母语的学生也面对同样的母语干扰。

例如，在发“蚊が（かが）”时，以汉语为母语的人把“か”发成送气音 [kʰa]，把“が”发成不送气音的 [ka]。汉语中的送气音 [kʰa] 和不送气音 [ka] 的拼音形式分别为“ka”“ga”，这样就容易和日语的“ka”“ga”混淆，从而也就更不容易分清了。

1. 声帯の振動の確認と音声環境作り

この指導には、二つの問題点がある。一つは有声音、つまり声帯が振動する音の出し方がわからないということ、もう一つは声帯が振動する音を発音していても、それを音素として認識していないという点である。一般的に中国語話者は、呼気量には敏感だが、声帯の振動には無頓着である。

有声音であることをわからせるには、声帯が振動していることを感知させることである。例えば、手を喉仏に当てて発音させてみる。手の代わりに喉にマイクを当ててみるのもいい。ただし、「か」と「が」を比べた場合、[ka] は [k] のあとすぐ母音 [a]、つまり有声音を続けて発音する音であるので、声帯の振動を伴わない無声音 [k] は発音する時間がごく短い。そのため、声帯の振動を感知することに慣れていないと [ga] と区別しにくい。その場合、子音だけ「くっ、くっ、くっ」、「ぐっ、ぐっ、ぐっ」と発音させて観察したほうがわかりやすい。

声帯の振動が感知できたら、次に有声音の発音練習をさせる。もともと子音を有聲で発音する習慣がないので、なるべく発音しやすい環境（音声学ではその音の両隣のことをいう）で発音させたほうが発音しやすくなる。例えば、[ga] を [a] で挟んで、「あがあ」と言う練習をさせると [g] が出やすくなる。

この「あがあ」は出だしから終わりまで有声音が続くので、声帯は途切れることなく振動する。発音しやすく、また有聲であることが確認しやすい。この「あがあ」がスムーズに言えるようになったら、はじめの「あ」を省いて「があ」を発音させ、さらに終わりの

「あ」を省いて、なるべく短い間隔で「が、が、が、が、が」と言わせ、短く切れるようになったら、「が」を単独に言わせる。ほかの有声子音も同じような要領で練習させる。例えば「ぎ」の場合、「いぎい」→「ぎい」→「ぎ、ぎ、ぎ、ぎ」→「ぎ」というように練習させる。

进行清音和浊音的指导，有两个问题：一是学生不懂得浊辅音即有声带振动的辅音是如何发出来的，再一个是虽然能发出有声带振动的浊辅音，却不能把它当作“音位”来加以认识。一般地说，汉语话者对送气量较敏感，而对声带的振动则不敏感。

要使学生明白什么是浊音，就要让他们感知到声带的振动。比如，可以把手放在喉咙上来感受发音。不用手，用麦克风也行。但是，在比较“か”和“が”的发音时，因为发[kɑ]时在[k]的后面紧跟着元音[a]（浊音），无声带振动的[k]发音时间很短，因此如果对声带振动不习惯，往往不易听出与[ga]的区别。这时，如只发辅音“くっ、くっ、くっ”、“ぐっ、ぐっ、ぐっ”，就会比较容易观察它们之间的区别。

感知到了声带的振动，下面就是练习浊音的发音了。由于原本没有发浊音的习惯，因此要创造容易发音的语音环境（在语音学上指与某个音相邻的两个音），才能比较容易地发出浊音来。例如，让[ga]夹在两个[a]中间，发“あがあ”，这样练习，比较容易发出正确的浊音[g]。

“あがあ”从开始发音到发音结束，一直都是浊音，因此声带一直保持振动的状态，这样就既容易发音，声带振动与否也容易确认。在“あがあ”发得比较好了以后，把开始的“あ”去掉，发“があ”，再进一步把最后的“あ”也省掉，

尽可能留较短的间隔连续发“が、が、が、が、が”，当学生能把每一个“が”断开时，就可以让他们发单独的“が”了。其他的浊音也可以采用相同的方法练习。例如“ぎ”，也按照“いぎい”→“ぎい”→“ぎ、ぎ、ぎ、ぎ”→“ぎ”的顺序练习。

コラム3 朝鮮語話者の子音①

◆平音、激音、濃音◆

朝鮮語の破裂音/p/t/k/には平音、激音、濃音と呼ばれている対立があり、このうちの平音は中国語やベトナム語などの無出気音（無気音）、激音は出気音（有気音）である。したがって、朝鮮語話者が日本語の音声を学習する場合には、中国語話者と同じ問題が生じる。

朝鮮語の平音、激音、濃音について、もう少し詳しく解説しておくことにする。

平音というのは、語頭では無声音であるが、語中で有声音に続く時、有声音で発音される音である。

激音というのは、中国語やベトナム語の有気音に相当する。強烈に息を吐き出すようにして発音する。日本語の、「**かつ** か（閣下）」、「**タッチ**」「**ひっ**たくり」などのうち、**■**で示した部分が大変似ている。

濃音というのは「息」を全く伴わない無声音の一種で、喉をしめつけるようにして発音する。日本語の、「**が**つかり」「**や**った」「**や**っぱり」「**あ**つさり」「**う**っちゃり」などのうち、**■**で示した部分が大変似ている。

さて、朝鮮語の子音にこのような区別があるので、朝鮮語話者は「日本語のここの子音は、平音が激音が濃音か」が気になり、例えば「トー**キョー**（東京）」の「キョ」の部分は平・激・濃のうちどれかというふうに見る場

◆平音、激音、濃音◆

朝鮮語の塞音/p/t/k/中存在着称作“平音”、“激音”、“浓音”的语音对立。其中，“平音”相当于汉语及越南语的不送气音，“激音”相当于送气音。因此，以朝鲜语为母语的人学习日语时，会发生和汉语话者相同的问题。

这里详细地解释一下朝鲜语的“平音”、“激音”、“浓音”：

“平音”在词首发清音，但在词中跟在浊音后面时发浊音。

“激音”相当于汉语及越南语的送气音。发音时带有强烈的送气。日语中，“**かつ** か（閣下）”、“**タッチ**”、“**ひっ**たくり”等词中用“**■**”标出的部分与其有些近似。

“浓音”是完全不送气的清音的一种，发音时喉部较紧张。日语中，“**が**つかり”、“**や**った”、“**や**っぱり”、“**あ**つさり”、“**う**っちゃり”等词中用“**■**”标出的部分与其有些近似。

由于朝鲜语辅音中有着这样的区别，因此朝鲜语话者对“日语这里的辅音究竟是‘平音’、‘激音’，还是‘浓音’？”就会很在意。例如他们会来问老师，“トー**キョー**（東京）」中的“キョ”到底是“平音”、“激音”、“浓音”中一种？

可以按照下面的方法进行指导。

(1) 先仔细地反复听日本人的自然发音，然后

合がある。

次のように指導すると効果的である。

(1) 日本語話者の自然な発音を何回も注意してよく聞くこと。そして、発音してみること。

(2) 語中の平音は有声化して「トーギョー」のようになるので平音ではない。また、激しく息を吐き出すこともないので激音でもない。しかし、朝鮮語の濃音のように全然吐息が伴わないわけでもない。したがって a. 平音は平音でも語頭の [k] 音を発するつもりで発音する。
b. 多少息を吐き出しながら、濃音を発音するつもりで声を出してみる。以上、a、b の二つがアドバイスとしてわかりやすい。ただし、理論的にわかっていても、実際にうまく調音できるかどうかはまた別の問題であるので、繰り返し聞き、発音することがいちばん効果的である。

进行模仿。(2) 词中位置的平音会浊化为“トーギョー”，因此它不是平音；它在发音时没有强烈的送气，因此也不是激音；并且，它又不像朝鲜语的浓音那样完全不伴随气息。因此，a. 就算它是平音，也要按照词首的 [k] 那样发音。

b. 试着在发浓音时稍稍带一点送气。上述 a、b 两条提示应该还是比较简明易懂的。但是，即使理论上弄懂了，实际发音时能否发得出来却是另外一个问题。所以最有效的方法还是反复听、反复练。

2. 語中の有声音・無声音

有声音・無声音の発音では、語頭の有声音、特に「ざ行」の「じ」と「ず」、語中の無声音、特に「た行」の「ち」と「つ」に間違いが多い。

語頭の有声音が無気音になる間違いを矯正する一般的な方法は、できるだけ語頭の有声音を発音する時に息を抑えることを意識させることである。さらに、鼻音のあとに有声音が出やすいという現象を利用して、語頭の有声音の前に軽く「ん」をいれて発音させたり、鼻音に続く語中の有声音から語頭の有声音を導いたりするなどの方法がある。例えば、「へんずつう」→「ずつう」などのように練習させる方法である。

また、中国語話者は語中の無声音を有声化しがちである。例えば、「とちじ（都知事）」が「とぢじ」になりやすい。特に有声音に挟まれていると間違えることが多い。例えば、「おとうさん」が「おどうさん」になっ

てしまう。このような語中の無声音の有声化を矯正するには、声帯振動を抑えることがポイントになる。促音「っ」の後は無声音が出やすいという現象を利用して、語中の無声音の前に軽く「っ」をいれて練習させるという方法がある。ただ、「とちじ」が「とっちじ」のまま定着しないように気をつけさせなければならない。もう一つの方法は、語頭の無声音が有声化しないことを利用して、「ちじ」で「ち」の音を練習させ、その上で「とちじ」と発音させるといい。

浊音、清音的发音，词首的浊音中特别是“ざ行”的“じ”和“ず”，词中的清音中特别是“た行”的“ち”和“つ”容易发错。

词首的浊音容易被发成不送气音。纠正这一错误的一般方法是，要使学生懂得在发词首的浊音时尽可能控制呼气。还可以利用在鼻音之后较容易发出浊音的特点，在词首的浊音之前轻轻地加上一个“ん”，或者首先练习词中并出现在鼻音后的浊音，然后再来发词首的浊音。比如，用从“へんずつう”到“ずつう”的顺序来练习。

此外，汉语话者容易把词中的清音发成浊音，如把“とちじ(都知事)”发成“とぢじ”等。特别是夹在两个浊音中间的清音更易被发成浊音，如“おとうさん”被发成“おどうさん”等等。纠正这样的错误，首先控制声带的振动是最根本的。可以利用促音“っ”后不易发成浊音的特点，在词中的清音之前轻轻地加上一个“っ”来练习。只是，需要注意的是，不要让“とちじ”真的变成“とっちじ”。还有一个方法，利用词首的清音不易发成浊音的特点，先用“ちじ”来练习“ち”，然后再来发“とちじ”。

コラム4 朝鮮語話者の子音②

◆語頭の子音と語中の子音◆

朝鮮語では、基本的に語頭の子音が有声化することはない。激音と濃音は語のどの位置にあっても有声音になることはないし、平音も語頭にある時は無声音で発音する。したがって、朝鮮語話者は有声音で始まる語を発音するのが得意でない。例えば、「現代」「電柱」「同士」「パイリングル」「瓶」「銀メダル」「大統領」などの語頭の有声音を「ケンダイ」「テンヂュー」「トーシ」「パイリングル」「ピン」「キンメダル」「タイドーリョー」のように無声化させてしまう傾向がある。ただし、母音が語頭に来る場合にはそれに続く有声音は問題なく発音できる。以上のことから、語頭の有声音の練習には、母音で始まる語からやってみるのも効果的である。

平音は語中(特に有声音に挟まれる環境にある時)では、語頭の場合と逆に有声音で発音する。したがって朝鮮語話者は語中の無声音を含む語を発音するのが得意でない。例えば、「解体」「おとうさん」「宇宙」「公開」などの語中の無声音を「カイダイ」「オドーサン」「ウヂュー」「コーガイ」のように有声化させてしまいやすい傾向がある。

◆词首の辅音与词中的辅音◆

在朝鲜语中,基本上词首的辅音不浊化。激音和浓音不论处在什么位置也不会变为浊音,平音在词首也发清音。因此,朝鲜语话者不大擅长发词首的浊音。例如“现代”、“电柱”、“同士”、“パイリングル”、“瓶”、“銀メダル”、“大統領”等在词首出现浊音的,往往会把它们发成清音,如:“ケンダイ”、“テンヂュー”、“トーシ”、“パイリングル”、“ピン”、“キンメダル”、“タイドーリョー”等。但是,当前面还有元音时,接在其后面的浊音一般都能发得很好。由此看来,练习词首的浊音时,从词首有元音的词开始练,也许可以收到较好的效果。

平音在词中出现时(特别是出现在两个浊音之间时),和它在词首时相反,一般发成浊音。因此朝鲜语话者往往发不好词中含有清音的词。例如“解体”、“おとうさん”、“宇宙”、“公開”等词中的清音,常常被发成浊音,如:“カイダイ”、“オドーサン”、“ウヂュー”、“コーガイ”等。

第3課

重点的に指導すべき子音

1. 「さ行」「ざ行」「た行」 「だ行」

「ざ行」の「じ」と「だ行」の「ぢ」は、語頭に来た時は破擦音 [dʒ] と発音する。しかし、語中にある時には摩擦音の [ʒ] になる。例えば、「じゃあ、また」の「じ」は [dʒ] であり、「それじゃあ」の「じ」は [ʒ] となる。また、中国語の摩擦音は日本語のそれと比べて強く長く発音するので、日本語の「じ」を発音する時はできるだけ短く発音するようにさせなければならない。

「す」「ず(づ)」「つ」は、中国語の si [sɿ]、zi [tsɿ]、ci [tsʰɿ] になりやすいので、母音が「う」であることを意識させて、「う」を発音する時と同じ唇の形で発音させるといい。ただ、「す」「ず」「つ」を発音する時の母音 [ɯ] は「う」「く」「む」の時の母音 [u] より舌の位置が高く前よりなので、発音する時、「う」「く」「む」の舌の位置と違うことをわからせる必要がある。

“ざ行” 中的“じ” 和“だ行” 中的“ぢ”，处在词首的位置时为塞擦音 [dʒ]，但是它位于词中时，变为摩擦音 [ʒ]。例如，“じゃあ、また” 中的“じ” 为 [dʒ]，而“それじゃあ” 中的“じ” 则为 [ʒ]。另外，汉语的摩擦音和日语相比较强、较长，因此在发日语的“じ” 音时，要让学生尽量把辅音部分发得短些。

“す” “ず(づ)” “つ” 容易被发成汉语的“si [sɿ]” “zi [tsɿ]” “ci [tsʰɿ]”，要让学生意识到元音是“う”，用和发“う” 时相同的唇形来发音。但是，“す” “ず” “つ” 中的元音 [ɯ] 比发“う” “く” “む” 时元音 [u] 的舌位稍高一些并且靠前，应该让学生明白这一点。

コラム5 朝鮮語話者の子音③

◆「つ」の音◆

朝鮮語には、「つ」の音がないので、この音の発音を苦手とする。朝鮮語話者は自言語の中で比較的似た音である「ちゅ」「す」で置き換えて発音してしまうことが多い。これについては、(1)「つ」と「ちゅ」と「す」それぞれの音節そのものだけを、何度も何度も繰り返して、聞かせては発音させ、発音させては聞かせる。(2) やがて徐々に「つ」の発音ができるようになる。そうすればしめたものである。翌日にはまたできなくなっているかもしれないが、早く戻れるはずだ。(3) に「つ」を含む語、語から文節、文節から文へと単位を大きくしていき、どんな場合にも対応できるようにトレーニングしていくのである。

◆「ざ・ず・ぜ・ぞ」の音◆

朝鮮語には、「ざ・ず・ぜ・ぞ」の音がないので、この音の発音を苦手とする。朝鮮語話者は自言語の中で比較的似た音である、それぞれ「じゃ」「じゅ」「じえ」「じょ」で置き換えて発音してしまうことが多い。指導としては、上記「つ」の音のところで述べたのと同じ方法でやると効果的である。

◆“つ”音◆

因为朝鲜语中没有“つ”音，这个音也比较难发。朝鲜语话者多用母语中与此近似的“ちゅ”、“す”来代替。关于这个问题，可以用下面的办法解决：(1) 先让学生反复听只有“つ”、“ちゅ”、“す”音节的发音，听了模仿，模仿了再听。(2) 这样，慢慢地学生就可以发出“つ”音来。这当然是再好不过的。学生可能第二天又不会发了，但应该很快就学会的。(3) 从单音向含有“つ”的单词、文节、句子逐渐扩大，训练学生不论在什么语音环境中都能正确地发音。

◆“ざ・ず・ぜ・ぞ”音◆

因为朝鲜语中没有“ざ・ず・ぜ・ぞ”音，这些音较难发好。朝鲜语话者多用母语中近似的“じゃ”、“じゅ”、“じえ”、“じょ”来代替。在指导时，可以参照上面“つ”的练习方法进行训练。

2. 「は行」「ば行」「ぱ行」

「は行」は、「は、へ、ほ」の [h]、「ひ」の [ç]、「ふ」の [Φ] のように三つの異なる音のグループに分かれているので、ひとつひとつ発音の練習をさせる必要がある。[h] はあまり問題はないが、学習者の発音が日本語としては氣息が強すぎると感じられることもあるので注意されたい。

「ひ」は調音点が前にずれて「し」に近い発音になる学習者がいるので、その時は、舌の正しい位置を確認させる。「い」を発音する時の舌の位置を確認させて、そのまま「ひ」を発音させるとよい。「ふ」は [Φ]、つまり両唇摩擦音であるが、中国人学習者は唇歯音の [f] で代用することがあるので、注意されたい。

次に「ば、び、ぶ、べ、ぼ」であるが、文字の上からは「は、ひ、ふ、へ、ほ」に濁点を付しているので、清濁が対立しているように見える。しかし音声学的には、「ば行」に対立するのは「ぱ行」である。記号ではこの対立は [b]/[p] となる。「ば行」の子音 [b] は破裂音であるが、唇を緊張させて強く破裂させる音ではなく、弱い破裂を伴う音、つまり、唇を開く瞬間に力をいれすぎないように発音する。

「ば、び、ぶ、べ、ぼ」は中国人にとってあまり問題のない音であるが、ただ日本人の場合より氣息が強くなる傾向があるので、コントロールすることが必要である。

“は行”的辅音有“は、へ、ほ”的 [h]、“ひ”的 [ç] 和“ふ”的 [Φ] 三种不同发音，因此要分开练习。[h] 一般问题不大，但学生的发音有可能作为日语显得呼气过强，这

一点需要注意。

“ひ”の发音有的人容易发得舌位过于靠前，因而听来接近“し”的发音。这时要指导学生找到正确的舌位：先确认发“い”时的位置，在此位置发“ひ”音就可以了。“ふ”的辅音是[ɸ]，即双唇摩擦音。中国学生有时用唇齿音[f]来代替，因此需要注意纠正。

“ば、び、ぶ、べ、ぼ”在文字上是在“は、ひ、ふ、へ、ほ”上面加了浊音点，因而会引起错觉，似乎它们是一组清、浊对立体。实际上，在语音学上，与“ば行”对立的是“ぱ行”音。用国际音标来表示，这组对立为/b//p/。“ば行”辅音[b]是塞音，但不是绷紧嘴唇的强爆破，而是爆破较弱，就是说，在嘴唇打开时不要过于用力。

“ば、び、ぶ、べ、ぼ”对中国人来说问题不大，但容易发音时呼气过强，需要控制气息的使用。

3. 「ま行」

「ま行」も特に問題はないが、学習者によっては両唇の緊張度を日本語の「ま行」の時より強くして発音してしまうので、不自然な発音に感じられることがある。「ば」を発音する時と同じ要領で、唇を弛緩させたまま、軽く発音させる。

“ま行”一般问题不大，但有的人发音时双唇紧张度比日语“ま”高，听来会使人觉得不自然。要用和发“ば”时相同的要领，先把嘴唇放松，轻一点发音。

4. 「ら行」

「ら行」の音 [ɾ] の発音は、[r] や [l] で代用したり、不正確に真似たりすることが多いので、はじめから [ɾ] の正確な発音ができるように指導されたい。

まず、舌の先を「た行」の子音 [t] や「だ行」の子音 [d] を発音する時の位置に付ける。「た」や「だ」の場合はその舌を勢いよく下に離すが、「ら」の場合には舌先が歯茎を軽く1度はじく。そして、はじく間隔をしだいに短くして、「らっらっらっらっ」という具合に声を出させる。中国語母語話者の場合、「ら」が「らあー」というように延びた音になりがちなので、なるべく短い間隔で発音させる。こうした練習で「ら」の音を出させることはそう難しくないが、定着するには時間がかかるので、持続的に練習させる必要がある。

学習者によっては、方言の影響で「ら」を「な」「だ」と発音する場合がある。これは南方出身者に多い。例えば、「わからない」を「わかなない」と発音する。これは、「ら」を発音する時、息が鼻腔に抜けてしまうのが原因である。「ら」が「な」になってしまう時には、鼻をつまんで息が鼻から抜けないようにしながら言わせると効果的である。鼻をつままなくても「ら」が発音できるようになれば、この訓練は終わりである。

逆に「だ」を「ら」に近い音で発音する場合がある。例えば、「いただきます」を「いたらきます」のように発音する場合である。これは「だ」を発音する時、舌先が歯茎にとどまる時間が短く、力のいれ具合が足りないことが原因である。「だ」と発音する時はできるだけ勢いよく舌を歯茎から下に引き下げなければならぬ。また、「ら」は舌を反らして歯茎に当てるようにす

ることを意識させるといいだろう。次の順序で練習を行うと効果がある。

ただ、ただ、ただ	だた、だた、だた
だら、だら、だら	らだ、らだ、らだ
なら、なら、なら	らな、らな、らな

“ら行”の発音 [ɾ], 常常会被用 [ɹ] 或 [l] 来代替, 或模仿得不正确, 因此最好在一开始就把它发好。

首先, 把舌尖放在发“た行”的辅音 [t] 或“だ行”辅音 [d] 的位置。在发“た”或“だ”时舌尖是有力地打开, 而发“ら”时则像是用舌尖轻轻地向齿龈后部弹击一次。练习时, 把每次弹击的间隔逐渐缩短, 发出“らっらっらっらっ”。中国学生往往把“ら”发成较为拖沓的“らあー”, 因此要让他们用较短的间隔发音。用这样的方法, 发出“ら”音并不很难, 但要保持住正确的发音则需要较长的时间, 因此练习要打持久战。

“ら”音还会因学生的南方方言口音影响而发成“な”、“だ”音, 比如把“わからない”说成“わかなない”。究其原因, 是在发“ら”音时打开了鼻腔通道。如“ら”发成了“な”, 可以让学生堵上鼻子发音, 不让气息从鼻腔流出来。当不堵鼻子时也能发出“ら”音了, 这个训练也就可以结束了。

与此相反, 有时会有人把“だ”发成接近“ら”的音, 例如把“いただきます”说成“いたらきます”。这是在发“だ”音时舌尖在齿龈部位停留的时间过短和缺乏力度造成的。发“だ”音时, 必须尽可能使舌尖有力地离开齿龈。还有, “ら”是舌尖上翘碰触齿龈的, 意识到这一点也很重要。用下面的方法练习会有很好的效果。

ただ、ただ、ただ	だた、だた、だた
だら、だら、だら	らだ、らだ、らだ
なら、なら、なら	らな、らな、らな

第4課

特殊拍の指導

長音、促音、撥音を特殊拍という。これらの発音で基本的に問題になるのは、何といても拍感覚である。きちんと1拍の長さをとって発音できるように指導するということに尽きる。長音では前の母音を1拍分延ばすことができるように、促音では後ろの子音の調音状態を1拍分持続することができるように指導する。口の形を構えただけで音を出さず1拍待つて発音する促音は特に難しいのだが、促音の中でも、「さ行」子音の前の促音は、1拍分待つというより1拍分早めに「さ行」子音を発音しているので、この環境の促音から練習すると感覚的につかみやすいこともある。特殊拍の発音は単語レベルよりもむしろ文のレベルで問題が生じやすいので、文の中での練習を中心にしたい。

“长音”、“促音”、“拨音”叫做“特殊音拍”。特殊音拍的发音问题一般容易出在节奏感上，因此最重要的就是要使学生把每一个音拍的长度发够。发长音时，要把前面的元音拉长一拍；发促音时，要把后面的辅音状态保持一拍。在促音中，只有发音动作而不发声的促音较难发，但是，“さ行”辅音前的促音由于不是等待一拍的长度，而是把辅音提前一个音拍发出来，因此在这样的环境中练习促音，有时比较容易体会音拍的节奏感。特殊音拍的发音在句子层面上比在单词层面上更容易出问题，因此要以句子中的练习为主。

1. 長音

長音の教え方のポイントは、まず拍感覚が養成されているかどうかということにある。そういうことを抜きにして、ただ長音と短音の相対的長さを示しても、あまり意味がない。実際に教える場合には、普通の拍の長さを確認してから始めるといい。これは、ほかの特殊拍、つまり促音、撥音の場合と同じである。

例えば、「おじさん」と「おじいさん」を対比させて、「おじいさん」における長音「じい」を練習させる時は、まず「おじさん」の「じさ」を短く言う練習をさせる。その上で「おじ・さん」をそれぞれ2拍1単位で言わせてから、それを一息に速く言わせる。それで普通に話す日本語の速さになるはずである。その上で「おじいさん」の「じい」を2拍分の長さでゆっくり言わせる。そうすると短音群の中で長音が安定してくる。単に音を長く延ばすのではなく、普通の「拍」を速く言わせることで、長音の2拍の長さが感覚的につかみやすくなる。

长音教学的关键首先在于学生是不是掌握了音拍的节奏感。离开了这个重点，只是把长音和短音的相对长度展示给学生也意义不大。在实际教学时，可以先确认普通音拍的长度后再开始练习长音。这一点在讲授其他特殊音拍如促音、拨音时也一样。

例如，让学生把“おじさん”和“おじいさん”加以对比，在练习“おじいさん”中的长音“じい”之前，先来练习把“おじさん”中的“じさ”发短，在此基础上，把“おじ・さん”以两音拍为一个单位来发音，发得熟练了，再练习把它们一口气说出来。这样，应该就可以达到日语的正常

語速了。然后，让学生把“おじいさん”中的“じい”用两个音拍的长度慢一点儿发音，这样，在短音群中的长音就能发得比较稳定了。不是一味地把长音拉长，而是通过把普通音拍发短的办法去体会长音相当于两个普通音拍的节奏感。

2. 促音

促音の場合も要領は同じである。例えば、「持って来てください」という文で促音を教える場合、まず「て来てください」を速く言わせ、その上でゆったりと「持って」を言わせると、文の中に促音「っ」がうまくおさまる。

练习促音时的要领与长音相同。例如，在讲授“持って来てください”一句中的促音时，先让学生快速地发“て来てください”，然后再慢一点儿发“持って”，这样，句子中的促音“っ”就可以掌握了。

3. 撥音

撥音「ん」の指導では、「拍」の問題と「異音」の問題がある。

「拍」の問題を解決する要領は、長音、促音の場合と同様である。例えば、「三十三間堂にお参りした」という文ならば「お参りした」を速く言わせ、その上で撥音の「三」「間」、長音の「十」「堂」のそれぞれの音を2拍分の長さでゆったり発音させるといい。

撥音の「異音」は五つある。(1)「ば、ば、ま」行の前、(2)「さ、ざ、た、だ、な、ら」行の前、(3)「か、が」行の前、(4)語末や文末、(5)「あ、や、わ」行の

前では、「ん」はそれぞれ [-m-] [-n-] [-ŋ-] [-N-] [-] と発音する。(1) から (3) の音は中国語にもあるので問題ない。また (4) の音は (1) から (3) のどれで代用しても日本人には同じように聞こえるので、実質的に問題は生じない。問題は (5) の音である。

「あ、や、わ」行の前の「ん」は、口の中に閉鎖を伴わない「非閉鎖音」で発音される。この現象は中国語にもあるので、例えば「天安门 [tʰən˥˩mən˥˩]」などの例を説明するとわかりやすい。しかし、(5) の「非閉鎖音」を特に (2) の「閉鎖音」で代用してしまうと、[n] の音と後ろの母音・半母音が結合して違う音（な行音）に変化し、意味が変わったり、意味不明になったりするので注意が必要である。これは、撥音とあとの母音をはっきり区切っていないということであり、拍感覚をつかんでいないという証拠である。具体例を挙げながら指導したほうがいい。例えば、「ほんあん」「まんいん」「たんい」「きんえん」「にほんえん」「あんうん」「さんぜんまんえん」「へんおん」などである。

撥音の問題に関しては、上述の撥音自体の調音上の問題よりも、むしろ撥音と結びつく前の母音の問題のほうが大きい。母音のところでもふれたように、中国語の音節「en」「eng」「uen」「ueng」の干渉で、特に撥音「ん」の前の母音「え」と「お」があいまい母音の [ə] や [uə] になりやすいのである。これも拍感覚をつかんでいないことが原因である。「えん」「けん」「せん」「くん」「ぐん」「ふん」などのような音声環境を作って練習し、母語の干渉を断ち切る必要がある。第1課の「母音と半母音の指導法」を参照されたい。

在拨音“ん”的教学中,有“音拍”和“变体”两方面的问题需要注意。

解决“音拍”问题的要领与长音、促音时相同。比如“三十三間堂にお参りした”,可以先让学生快念“お参りした”,然后再慢一点儿,用两音拍练习拨音的“三”、“間”及长音的“十”、“堂”等。

拨音的“变体”有5个:(1)“ば、ぱ、ま”行前为[-m-],(2)“さ、ざ、た、だ、な、ら”行前为[-n-],(3)“か、が”行前为[-ŋ-],(4)词尾及句尾为[-N-],(5)“あ、や、わ”行前为[~]。(1)~(3)由于汉语中也有,所以问题不大,第(4)种不论用(1)~(3)的哪一种替代,在日本人听来都是一样的,因此不会发生实质性的问题。较难的是第(5)种。

“あ、や、わ”行前的“ん”发口腔不关闭的“非塞音”。这种现象在汉语里也存在,例如,用“天安门[tʰɛ̃n˥mən]”等例子来说明,则会易于被学生理解。但是,需要注意的是,第(5)种“非塞音”如果用第(2)种“塞音”代替,则[n]音之后的元音、半元音会结合成别的音(即“な行”音),那会造成意思的改变,或者干脆莫名其妙了。这样的发音说明没有把拨音和后面的元音完全分离,是尚未掌握日语音拍感觉的表现。可以举一些具体的例子来练习,例如“ほんあん”“まんいん”“たんい”“きんえん”“にほんえん”“あんうん”“さんぜんまんえん”“へんおん”等。

关于拨音的问题,比起上述拨音自身的发音来,问题更多地出现在拨音前面、与拨音结合在一起的那个元音。在讲到元音的时候我们曾指出,由于汉语音节“en”“eng”“uen”“ueng”等的干扰,拨音“ん”前面的元音“え”和“お”容易被发成模糊元音[ɐ]或[ua]。发生此类错误也

是由于尚未掌握日语音拍感觉的缘故。可以安排在“えん”“けん”“せん”“くん”“ぐん”“ふん”等语音环境下练习，以避免母语的干扰（参看第1课“元音、半元音”的指导方法）。

コラム6 朝鮮語話者の「拍感覚」の問題

朝鮮語には「終声」があり、「子音+母音+子音」という構図であっても、一つの塊、一つのブロックであるなら1音節で発音してしまう。したがって、例えば「かく（各・書くなど）」を1音節で[kak]というふうに発音してしまう。こういう場合には、拍の概念を取り入れて練習させるのがいいだろう。

また、朝鮮語でも母音の長短によって、「굴[kul]（牡蠣）」と「굴[ku:l]（洞穴）」、「눈[nun]（目）」と「눈[nu:n]（雪）」、「밤[pam]（夜）」と「밤[pa:m]（栗）」のように語義が変わる。ただし、表記上の区別はない。したがって、そのことが日本語の発音にも影響してくる。また、長音は語のはじめ、第1音節にしか現れない。さらに、現在45歳以下の若年層には、本来、長音として発音すべき第1音節でさえも短音化して発音してしまう、つまり、長短の区別をしなくなる傾向が強いようである。したがって、日本語の長音については、特に指導に力を注ぐことが大切である。

朝鮮語中有“終声”，像“辅音+元音+辅音”的结构，如果构成一个音组，就会发成一个音节。所以，像“かく（各・書く等）”这样的词，往往被发成一个音节[kak]。此时，可以引入音拍的概念来练习。

另外，朝鮮語也會因為元音的長短而造成詞義的變化，如“굴[kul]（牡蠣）／굴[ku:l]（洞穴）”、“눈[nun]（眼睛）／눈[nu:n]（雪）”、“밤[pam]（夜晚）／밤[pa:m]（栗子）”等，但在書写上並無分別。這種情況也會影響到日語的發音。還有，長音只在詞首第1個音節出現。近來，45歲以下的年輕人往往把本來應該發長音的首音節也發成短音，就是說，似乎在朝鮮語中長短音的區別正在消亡。因此，在日語長音的指導上，需要多花上一些功夫。

第5課

母音の無声化の指導

1. 母音の無声化とは

日本語の拍は、特殊拍を除いて、ゆっくり発音する時、それぞれの拍には母音が続くが、速いスピードで話していると、その母音が聞こえない場合がある。これは関西地方で話される日本語ではあまり見られないが、東京語ではよく見られる現象である。

例えば「きしゃ（汽車）」の「き」を発音する時、「き」の母音 [i] ははっきり聞こえない。[k] を [i] の位置、つまり舌を前よりの位置にして発音した [ki] がそのまま [-ja] につながっているように聞こえる。舌の位置は [i] のままであるが、声帯が振動していないので、そう聞こえるわけである。このように声帯の振動をほとんど伴わない母音が発音される現象を「母音の無声化」と呼んでいる。無声化された母音には、その下に [.] という記号を付けて表す場合がある。例えば [kijə]（汽車）のように表す。

この母音の無声化は、か行、さ行、た行、は行、ば行などの無声子音 /k/s/t/h/p/ の間に狭母音の [i] や [u] が来た時によく起こる現象である。そのほか、東京語では「～ます」「～です」のように「す」が文の終わりに来た時にもこの現象が起こる。東京で育った人が関西地方に行った時、この「す」の母音をはっきり発音されるのに違和感を覚えることがある。

日語的音拍，除特殊音拍以外，在慢速发音时每一个音拍里都含有元音。但在语速较快时，有时其中的元音会听不见了。这种情形在日语的关西方言中不很多见，但在东京方

言中出現の頻率是很高的。

例如，在发“きしゃ（汽車）”的“き”时，“き”的元音 [i] 听不大清楚，[k] 在 [i] 的位置，即舌位靠前发的 [ki] 听起来直接和后面的 [-ja] 连在一起。舌头的位置虽然仍在 [i] 那里，但声带不振动，所以听起来就成了前面讲的那种效果了。像这样，在发元音时声带基本上不振动的现象就称为“元音无声化”。无声化的元音，有时用在元音下面加标 [.] 号来表示，例如 [kiʃa] 等。

这种元音无声化的现象，多见于夹在か行、さ行、た行、は行、ば行等清辅音 /k/s/t/h/p/ 之间的高元音 [i] [u]。此外，在东京话里，“～ます”、“～です”的“す”在句子最末尾时也发生同样的现象。说东京方言的人到了关西地区，他们会觉得那种把句尾“す”的元音发出来的说法听起来很别扭。

2. 性急に指導しないこと

母音の無声化は、中国語に同じ現象がほとんどないので、学習者にとっては非常に難しい音声現象となっている。これについては中国語では数少ない例であるが、「客气」の「气」や「豆腐」の「腐」を示して意識させるといい。四声という母音（有声）の上げ下げ、つまり声調で意味を区別している中国語話者には母音の消える現象を理解させ、会得させるのはかなり難しいことである。本来は長期的な練習が必要な項目である。このため、性急に効果を期待して指導を急ぐと、学習の意欲を失わせてしまうこともあるので注意が必要である。母音を無声化しない地方出身の日本人も、訓練を受けていなければ無声化の母音を的確に聞き

取ったり、意識的に無声化させて発音したりすることは容易ではないので、あまり性急に効果を上げようとせず時間をかけて練習させることが大切である。

元音无声化の現象在汉语中几乎没有, 因此对学习来说是相当难的。对此, 可以举汉语中较为稀有的“客气”的“气”、“豆腐”的“腐”等例子, 以便于学生理解。让靠四声那样的以元音音高的升降(即声调)来区别意义的汉语话来理解并掌握元音的无声化, 确实是很不容易的。这本来是一项需要长期练习的项目。要注意, 如果急于求成, 反而会令学生丧失学习积极性。即使对于来自没有元音无声化地区的日本人来说, 如果不加训练, 他们也不能自如地听出和发出无声化元音, 因此指导时不能急着想马上就得到好的效果, 而是需要花上一些时间, 慢慢练习。

3. 練習は聞き取りから

無声化した母音を練習させる時、最初に基本的な無声化の環境を説明することが必要であると思うが、ルールの理解よりも、自然な音声環境の中で無声化した音をたくさん聞いて覚えていくほうが大切である。この母音の無声化の問題は日本語らしさに深く関わっており、それができなければ、時に聞き取りに支障をきたす恐れもあるので、どうしても避けて通れない道である。しっかり練習するよう指導してほしい。練習の手順としては、まず聞き分けの練習やディクテーションで無声化した母音が聞き取れるかどうかを確認し、その上で発音練習を行う。

在让学生练习无声化元音的时候，从最开始就来解释无声化出现的语音环境当然是必要的，但多听并记住在自然语音环境中出现的无声化发音，比理解规则更重要。元音无声化的问题和你所讲的日语听起来是否地道大有关系，不解决这个问题，有时还会影响到听力，因此是无法回避的。一定要让学生好好练习。练习的顺序是：先通过听辨和听写来搞清楚学生是否听得出无声化元音，然后再进行发音练习。

第6課

プロソディーの指導

1. アクセント

中国語を母語とする日本語学習者にとって重要な日本語のアクセントの問題は次の二つである。

一つは、一般に単語末まで高く続いていく平板型と尾高型アクセントを苦手とする問題である。中国語では平らな音節（第一声）が同じ高さでいくつも続くということはまれで、普通はかなり抑揚に変化のある音調になっている。その影響からか、日本語の平板型や尾高型の発音では拍数が多くなればなるほど長く高く続けることができず、不自然な抑揚を付けてしまうことになる。特に、結合規則で平板型に変わった拍数の長い複合語や文節などは注意する必要がある。例えば、「かいがい」 + 「しゅつちょう」 + 「ちゅう」 = 「かいがいしゅつちょうちゅう」や、「がくせい」 + 「の」 + 「こうかん」 + 「を」 + 「おこなう」 + 「ない」 + 「こと」 + 「に」 + 「する」 = 「がくせいの こうかんを おこなわない ことにする」などの場合である。また、単語レベルでは同じパターンで接続し、助詞の高低だけが違うという平板型と尾高型の混同（例えば、「はな（鼻）」 + 「が」 = 「はなが」、「はな（花）」 + 「が」 = 「はなが」）もよく見られる。現代日本語のアクセントパターンでは平板型が圧倒的に多く、尾高型は非常に少ないということをまず学習者に伝えておき、尾高型の語を重点的に覚えさせるのも効果的な方法である。特に初級の段階では、平板型と尾高型の単語は、「おじさんが」「おとうとが」のように助詞を付けた形のフラッシュカードを用意して単

語レベルでたくさん練習させるといいだろう。

もう一つは、中国語母語話者の場合、日本語のアクセントの高低の幅が非常に大きいという問題である。これは、意味の区別のために、ある程度絶対的な高低の幅を必要とする中国語の四声の影響と思われるが、第1章でも述べたように、これが日本語らしさを阻害する要因の一つとなっている。

学習者にとって、日本語の煩雑なアクセントパターンを覚えるのは大変な作業であるので、指導する際には、挫折感を与えないよう根気よく行うことが必要である。

对于以汉语为母语的日语学习者而言，在学习日语的词重音时有两个重要问题需要加以解决：

一个是，发不好音高一直到词的末尾都很平直的“平板型”和“尾高型”重音。汉语中平直调（第一声）音节连续出现的情况较为罕见，一般情况下音高总是在不断变化。可能是由于这个原因，对于日语的平板型或尾高型词，音拍数越多，中国学生就越不容易掌握它的音高，而总是加进去一些不自然的高低变化。特别是由于声调规则而变成平板型的较长复合词以及“文节”等情况时，要特别注意。

如“かいがい” + “しゅっちょう” + “ちゅう”
 = “かいがいしゅっちょうちゅう”、“がくせい”
 + “の” + “こうかん” + “を” + “おこなう”
 + “ない” + “こと” + “に” + “する” =
 “がくせいのこうかんをおこなわないことにする” 等場合。

此外，像平板型和尾高型这两类词，在词汇层面上重音是相同的，只是后面接续的助词高低不同。这两类词也容易被

学生們混淆(如“はな(鼻)”+“が”=“はなが”, “はな(花)”+“が”=“はなが”等)。可以先告诉学生, 现代日语词汇中平板型占绝大多数, 尾高型数量很少, 然后再重点记忆尾高型词。这样做, 教学效果也不错。特别是在初级阶段, 可以准备一些“おじさんが”、“おとうとが”等加了助词的平板型、尾高型词汇卡片, 在单词层面上进行练习。

再一个是, 中国学生音高的高低幅度特别大。这可以看作是为了区别意义而需要某种绝对音域的汉语的音调对日语的干扰现象。如第1章所说, 这是影响日语语音纯正与否的一个重要因素。

对学习者而言, 记忆日语复杂的重音类型是很不容易的, 因此, 在做发音指导时千万要注意, 一定要有耐心, 不要伤害了学生的学习积极性。

2. イントネーション、プロミネンス、ポーズ

文全体にかかるイントネーションについては、文の構造に関わっているということを大まかに理解してもらえばいい。一般に次の文節との間に意味的な修飾関係があればそのまま低くつながり、意味的な修飾関係がなければやや高めにつながるという傾向があることを理解させるわけだが、「すわってみてください」という文では、高くつながれば本動詞「見て」になり、低くつながれば補助動詞「みて」になるというような例や、「若い社長の秘書」で「若い」のは「社長」か「秘書」かといった関心の所在を具体的に示すと理解しやすくなる。また、ここでは高さの問題だけではなく、ポーズの問題も深く関わっていることにふれておく必要がある。つまり、次の文節との間に修飾関係がなけ

れば、やや高めにつなぐと同時に一定のポーズを置くのが普通であることを意識させることである。

文末のイントネーションは、話し手の微妙な感情を表す表現方法であるが、絶対的な規則はない。確認や疑問、驚きを表す時は上昇調、納得や失望を表す時は下降調、断定や命令は上昇も下降もしないという大体の傾向を紹介した上で、実際例を多く挙げて練習させるほうがいい。

句子整体的语调与句子结构有关系。这一点，让学生大致有个了解就可以了。一般来说，应该让学生理解：如果前后两个“文节”在意思上有修饰关系，则后面的“文节”音高要低下来；如果没有修饰关系，则后面的“文节”要读得高些。可以举下面的例子：“すわってみてください”句中，如果“みて”读得高，则为实义动词“見て（看）”，如“みて”低读，则是补助动词。还有，“若い社長の秘書”一例中，如能具体地表达出“年轻”的是“社长”还是“秘书”这样的关心点，就可以较容易地被学生理解。此外，还应该让学生明白，这里不仅仅是音高的问题，停顿也大有关系。就是说，如果前后两个“文节”在意思上没有修饰关系，后面的“文节”在读得稍高些以外，一般还会有某种程度的停顿出现。

句子末尾的语调是表达说话人微妙感情的手段，但没有绝对的规则。大体上讲，在表示确认、疑问、惊奇时读升调，表示理解、失望的感情时读降调，表达断定或命令时既升也不降。指导时，在介绍了上面的一般规律以后，要通过大量的具体实例来练习。

発音練習の素材について

1. 良い練習問題の条件

発音練習の素材として、音声環境をよく考えた単語や文を用いるのが一般的であるが、音声環境を重視するあまり無意味な言葉や日本語母語話者にとっても難しい早口言葉を用いることも多い。意味を無視したこのような機械的な練習は、学習者の練習意欲をそいでしまうことがある。

発音の練習問題は、日本語の拍感覚の習得を目指したリズムカルなもの、声に出して読むと情景が浮んでくるような楽しいもの、普通の話言葉として実際に使えるようなものが望ましい。学習者の日本語が少しずつ上達するにつれて、無意味な単語よりも意味のある単語、短文よりもある程度の長さをもったテキスト、さらにはまとまりのある文章を使った練習が必要である。すでに習った教科書の会話文や読解文を「日本語らしく」意識して読むことも大切なことである。

发音练习的材料多采用充分照顾到语音环境的单词或句子。但是，由于过多地照顾语音环境而采用无意义词，或采用连日本人也很难的绕口令的情况也很多见。不考虑意思的机械练习会影响学生的练习积极性。

发音练习的习题，以下面指出的几种为最佳：能使学生掌握日语音拍感觉的、富有节奏感的材料；朗读时能使人在脑子里浮现出具体场景的有意思的材料；语言较为通俗，在日常会话中可以用得上的材料。随着学习者日语水平的提高，练习材料也逐步从无意义词过渡到有意义的单词、短句、有一定长度的段落，乃至内容更加完整的文章。以语音的纯正

为目标、朗读教科书上已经学过的会话及阅读文、也是一个很重要的练习方法。

2. 総合練習には文章の朗 読で

長い文章を朗読すると、学習者のいろいろな発音の問題が現れてくる。中国語母語話者の場合、日本語らしさに関わる氣息の問題と音程の問題、アクセントの問題、母音の無声化の問題などがあるが、これらを総合的に確認したり、指導したりするためには朗読の練習をさせることがきわめて有効である。

中国語の朗読では、語りにメリハリをつけ、強調すべき時には声を張り上げたりするが、日本語の朗読の場合には、そういう語り方はしないのが普通である。言葉の表現性に重点をおきながら、静かな音声でストーリーの展開を語って聞かせるといういわば普通の話し方で語り進めていくのである。中国語話者に日本語で朗読させる練習を行う際には、とにかく必要以上にメリハリをつけたり、声を張り上げたりしてはならないことを、十分意識させることが大切である。

学習者は朗読に入る前に、まず作品の内容理解に努め、内容の全体像が頭に入ったら、音声テープで文章のリズムや音の流れをよく聞き取る。そして、それを正しく復誦できるようにする。テープのモデル音声と復誦する自分の音声とを比べて、その違いをチェックする。その上でさらに読み進めていく。読む時は句読点どおりに切ることが大切である。ある作品の句読点は、著者がこう読んでもらいたいという指示でもあるので、句読点の前や句読点を通り越して勝手に切ると、

作者の意図とは異なったものとなり、またリズムも壊れる。いろいろな文章で朗読の練習をするよりも、一つの文章をテープのモデル音声のとおり暗誦できるまで繰り返し練習するほうがずっと効果的である。

朗読の練習では、できれば日本語母語話者の教師の指導やチェックを受けるのが理想的である。それができない場合は、まず自分の朗読を録音し、テープのモデル音声と比較したり、クラスメート同士で朗読しあって互いに発音チェックをしたりする方法がある。また、クラスで朗読大会や暗誦大会を開くのも、生徒の発音練習の意欲を高めるのに効果的である。日本語を声に出して言ったり、読んだりすることを楽しむ、それが、いちばん大事なことである。

在长文的朗读中,学生发音中的种种问题都会表现出来。汉语为母语的学习者会有气息问题、音域问题、词重音问题、元音无声化的问题等等,从而影响日语语音的纯正。为了对这些问题进行综合的发现和指导,朗读练习是极其有效的。

用汉语朗读时,语调上会是抑扬顿挫的,或提高调门来表示强调,而日语的朗读则不会这样。虽然也着力体现语言的表情功能,但日语一般采用平静的声音(即不很激烈的语调)来展开故事情节。指导学生进行朗读练习时,一定要让学生时刻意识到:不能过分抑扬顿挫,音调也不能过高。

在进入朗读练习之前,先努力去理解作品的内容,在内容的整体形象进入脑子之后,通过录音磁带仔细听文章的节奏感及语调、语流,进而对这些进行准确的模仿。对录音上的标准朗读和自己的声音进行比较,找出两者的不同,然后再继续朗读。朗读时,按照标点符号正确停顿很重要。在一

部作品中, 标点符号是作者希望读者这样来读而做的标记, 因此, 如果在标点前或标点后停顿, 就会违反作者的意图, 同时也破坏了句子的节奏。与其读很多文章, 不如对一篇文章重点练习, 达到能够按照录音中的标准读法背诵出来的熟练程度, 这样做效果会好得多。

朗读练习, 较为理想的是尽可能有日本老师来指导或纠音。做不到这一点时, 可以把自己的朗读录下来和标准朗读的磁带进行比较, 或同学之间互相指出问题, 互相纠正。在班级中举行朗读或背诵比赛, 也能提高学生练习发音的积极性。放开嗓子读日语、说日语并且以此为乐, 是比什么都重要的。

基本篇

拍の練習 1

1. あえい、うえお、あお

かけき、くけこ、かこ

させし、すせそ、さそ

たてち、つてと、たと

なねに、ぬねの、なの

はへひ、ふへほ、はほ

まめみ、むめも、まも

やえい、ゆえよ、やよ

られり、るれろ、らろ

わえい、うえを、わを

2. がげぎ、ぐげご、がご

ざぜじ、ずぜぞ、ざぞ

だでぢ、づでど、だど

ばべび、ぶべぼ、ばぼ

ぱぺぴ、ぷぺぽ、ぱぽ

3. きやけき、きゅけきよ、きやきよ
しやせし、しゅせしよ、しやしよ
ちやてち、ちゅてちよ、ちやちよ
にやねに、にゅねによ、にやによ
ひやへひ、ひゅへひよ、ひやひよ
みやめみ、みゅめみよ、みやみよ
りやれり、りゅれりよ、りやりよ
ぎやげぎ、ぎゅげぎよ、ぎやぎよ
じゃぜじ、じゅぜじよ、じゃじよ
ちやでち、ちゅでちよ、ちやちよ
びやべび、びゅべびよ、びやびよ
びやぺび、びゅぺびよ、びやびよ

拍の練習2

4. あ、い、う、え、お
あい、うえ、お
あえい、うえお、あお
ああ、^あ青い、いい^い家、あいうえお
5. か、き、く、け、こ
かき、くけ、こ
かけき、くけこ、かこ
^か書け^き書け、^く聞け^け書け、かきくけこ

6. が、ぎ、ぐ、げ、ご

がぎ、ぐげ、ご

がげぎ、ぐげご、がご

鍵、額、家具、籠、がぎぐげご

7. さ、し、す、せ、そ

さし、すせ、そ

させし、すせそ、さそ

獅子刺し、獅子死す、さしすせそ

8. ざ、じ、ず、ぜ、ぞ

ざじ、ずぜ、ぞ

ざぜじ、ずぜぞ、ざぞ

瀬々は、ざあざあ、ざじずぜぞ

9. た、ち、つ、て、と

たち、つて、と

たてち、つてと、たと

太刀と盾立つ、たちつてと

10. だ、ぢ、づ、で、ど

だぢ、づで、ど

だでぢ、づでど、だど

どこで枝打つ、だぢづでど

11. な、に、ぬ、ね、の

なに、ぬね、の

なねに、ぬねの、なの

あのね、なあに、なにぬねの

12. は、ひ、ふ、へ、ほ

はひ、ふへ、ほ

はへひ、ふへほ、はほ

「はははは、ほほほ」、はひふへほ

13. ば、び、ぶ、べ、ぼ

ばび、ぶべ、ぼ

ばべび、ぶべぼ、ばぼ

幅跳^{はば}び、跳^とべ跳^とべ、ばびぶべぼ

14. ぱ、ぴ、ぷ、ぺ、ぽ

ぱぴ、ぷぺ、ぽ

ぱべぴ、ぷべぽ、ぱぽ

パイプ、ぶかぶか、ぱびぶべぽ

15. ま、み、む、め、も

まみ、むめ、も

まめみ、むめも、まも

ママの肩揉^{かたも}み、まみむめも

16. や、い、ゆ、え、よ

やい、ゆえ、よ

やえい、ゆえよ、やよ

山は夕^ゆ焼^えけ、やいゆえよ

17. ら、り、る、れ、ろ

らり、るれ、ろ

られり、るれろ、らろ

レロレロ、らりる、らりるれろ

18. わ、い、う、え、を

わい、うえ、を

わえい、うえを、わを

祝^{いわ}おう、お祝^{いわ}い、わいうえを

拍の練習 3

19. きや、きゆ、きよ

きや、きゆ、きよ、きゆ、きや、きよ、きゆ

客^{きやく}が、きやあきやあ、きやきやきゆきゆきよ

20. ぎや、ぎゆ、ぎよ

ぎや、ぎゆ、ぎよ、ぎゆ、ぎや、ぎよ、ぎゆ

ギャグで、ぎやあぎやあ、ぎやぎやぎゆぎゆぎよ

21. しや、しゆ、しよ

しや、しゆ、しよ、しゆ、しや、しよ、しゆ

シャッター、かしゃかしや、しやしやしゆしゆしよ

22. じゃ、じゆ、じよ

じゃ、じゆ、じよ、じゆ、じゃ、じよ、じゆ

寝^ねぐせ、ぐじゃぐじゃ、じゃじゃじゆじゆじよ

23. ちや、ちゆ、ちよ

ちや、ちゆ、ちよ、ちゆ、ちや、ちよ、ちゆ

ねずみ、ちゅうちゅう、ちやちやちゆちゆちよ

24. にや、にゆ、によ

にや、にゆ、によ、にゆ、にや、によ、にゆ

うなぎ、にゆるにゆる、にやにやにゆにゆによ

25. ひや、ひゆ、ひよ

ひや、ひゆ、ひよ、ひゆ、ひや、ひよ、ひゆ
ひゆうひゆう、風^{かぜ}吹^ふく、ひやひやひゆひゆひよ

26. びや、びゆ、びよ

びや、びゆ、びよ、びゆ、びや、びよ、びゆ
車^{くるま}、びゆんびゆん、びやびやびゆびゆびよ

27. ぴや、ぴゆ、ぴよ

ぴや、ぴゆ、ぴよ、ぴゆ、ぴや、ぴよ、ぴゆ
ぴゆうぴゆう、木^き枯^がらし、ぴやぴやぴゆぴゆぴよ

28. みや、みゆ、みよ

みや、みゆ、みよ、みゆ、みや、みよ、みゆ
みやあみやあ、猫^{ねこ}なく、みやみやみゆみゆみよ

29. りや、りゆ、りよ

りや、りゆ、りよ、りゆ、りや、りよ、りゆ
ありやありや、こりやこりや、りやりやりゆりゆりよ

発展篇

母音・半母音の練習

1. 青は藍より出でて藍より青し。(荀子・勸学編)
2. 王さんのうちで結婚祝いの宴があった。いろいろな人がいろいろなお祝いを
持ってやってきた。王さんは友人の絵描きのAさんから海の絵をもらった。い
い絵だった。
3. 昨日は、夕焼け空が明るい夕方だった。家を出て町を歩いた。家々の上の
空一面に夕映えが広がり、あかあかと大空が燃えていた。夕日を浴びながら、
あてもなく町を歩いた。
4. いろりで岩魚と鮎を焼く。岩魚はよく焼いて宿のお客用に取っておく。鮎は家
のみんなの夕食用だ。
5. ママの母はやさしいおばあちゃん。ああいうおばあちゃんはあんまり周りには
いないなあ。
6. いつも着ていく着物は黄色い絹の地に金色の糸で縫い取りがしてあって、いち
ばん気に入っている着物です。
7. 淡雪の積もった裏の田んぼで、雀が落ち穂をつついてる。
8. この英語の絵本の絵を描いた絵描きは英国の日系人2世エドワード・江藤とい
う人です。

9. 大宮駅おおみやえきの前の広場まえ ひろばで大きな男おお おとこの人が時々時計ときどき とけいをのぞいている。人ひとを待っているようだ。
10. これは相合傘あいあいがさの絵えです。傘かさが描えがいてあり、その下したに男の子おとこ こと女の子おんな この名前なまえが書いてあります。男の子おとこ この一郎いちろうが女の子おんな この恵美子えみこという名前なまえを書いたのです。一郎いちろうは恵美子えみこが好きです。相合傘あいあいがさというのは愛あいしあっている2人ふたりが一つひとつの傘かさをさして歩くあることをいいます。
11. 明日あしたは愛子姉さんあいこねえのお見合いみあひの日ひです。今いまから落ち着おちつかなくて、家いえの中なかをうろうろ歩き回あるまわっています。明日あした、相手あいての男おとこの前まえでおろおろしなければいいんだけど。
12. 今時演歌いまどきえんかははやらないと思われがちだが、若い人わか ひとの間あいだでひそかにブームブームになっていて、ロックのCDCDの売り上げうりあげを追い上げている。
13. あどけない女おんなの子こだった結衣ちゃんゆいちゃんは、しばらく会あわないうちに大人おとなになっていた。明るあかくて愛あいらしい笑顔えがおは変わからなかった。
14. 朝あさから雨あめでゆううつでした。胃炎いえんで休養きゅうようしている私わたしを、姉あねが甥おいと姪めいを連つれて見舞みいに来きてくれました。久ひさしぶりに姉あねに会あえてうれしかった。姉あねは「栄養えいようをとらないと」と言いって、おかゆおかゆを作つくってくれました。それを食たべてからみんなでビデオビデオを見みました。おもしろいアジア映画えいがでよく笑わらいました。姉たちあねたちが家いえに帰かえるころには、雨あめも上あがり、いい天気てんきになっていました。おかげで私わたしの胃いのほうも早はやく治なおるような気きがしました。
15. A: 「もう失礼しつれいする」
 B: 「いいよ、いいよ。遠慮えんりょするなよ。せっかく来きたんだから、ゆつくりしていけよ」
 A: 「いや、そうはいかない。やっぱり帰かえる」
 B: 「そう言ういなよ。いてくれよ」

拗音の練習

16. 自慢^{じまん}じゃないが、柔道^{じゅうどう}には十分^{じゅうぶん}自信^{じしん}がある。10月の中学校対抗^{がっこうたいこう}の柔道大会^{じゅうどうたいかい}では準決勝^{じゆんけつしょう}まで進^{すす}んで3位^いに入賞^{にゅうしょう}したんだ。
17. ジャが芋^{いも}はジャガタラ、つまりジャワ島^{とう}のジャカルタ^きから来たので、ジャガタラ芋^{いも}と呼ばれ、それがジャが芋^{いも}になったのだそうです。カボチャはカンボジア^きから来たので、この名^ながあります。
18. 日本^{にほん}の緑茶^{りよくちや}は茶^{ちや}という名^なとともに中国^{ちゆうごく}から伝来^{でんらい}したのですが、今^{いま}は日本語^{にほんご}では中国^{ちゆうごく}のお茶^{ちや}は中国茶^{ちゆうごくちや}、日本^{にほん}の緑茶^{りよくちや}はただお茶^{ちや}と呼ばれています。それで「中国産^{ちゆうごくさん}の緑茶^{りよくちや}」は、一般^{いっぱんてき}的な中国茶^{ちゆうごくちや}と区別^{くべつ}して、中国^{ちゆうごく}の緑茶^{りよくちや}と言^いわなければなりません。
19. 鰯^{たら}を煮^にる時^{とき}には日本酒^{にほんしゆ}を少々^{しょうしょう}、それから生姜^{しょうが}を少し^{すこ}いれるといいでしょう。出^だし汁^じが少し煮^{すこ}つまってから醤油^{しょうゆ}を少量^{しょうりやう}落^おとし、杓子^{しやくし}でゆっくりかき回^{まわ}します。蓋^{ふた}をして3、4分^{ぶん}そのままにしておきます。食^たべる前^{まえ}にスダチ^{しだち}を搾^{しぼ}ってその搾^{しぼ}り汁^じを鰯^{たら}に垂^たらして食^たべてください。それでずっとお味^{あじ}がひき立^たちます。どうぞさめないうちに召^めし上^あがれ。
20. 今日^{きょう}の社会科^{しゃかい か}の授業^{じゅぎょう}では、まず図書館^{としよかん}に行^いって、釈迦^{しゃか}、大乘^{だいじやう}仏教^{ぶつぎやう}、小乗^{しょうじやう}仏教^{ぶつぎやう}、写経^{しゃきやう}といった言葉^{ことば}について調^{しら}べ、それから教室^{きやうしつ}に戻^{もど}って発^{はつ}表^{びやう}した。そのあと、小テスト^{しょう}をおこな^{おこな}われて、100点^{てん}をとった人^{ひと}は先生^{せんせい}から賞品^{しょうひん}をもらった。いろいろな種類^{しゆるい}の仏像^{ぶつぞう}が載^のっている絵葉書^{えはがき}のセットで、先生^{せんせい}が去年^{きょねん}中国^{ちゆうごく}に旅行^{りょこう}した時に首都^{しゅと}北京^{ぺきん}の空港^{くうこう}のお土産^{みやげ}品^{ひん}コーナーで購^{こう}入^{にゅう}したものだそう。

「か行」「が行」の練習

21. あかあかと輝く夕日が今草原に沈もうとしている。
22. 夕焼け空をカラスが鳴きながら帰っていく。
23. 窓ガラスに映ったカラスの影が動いている。
24. きらきらと輝く日の光、きらきらと油のように光る海。波が動くと、海面がきらりと光る。
25. くすん、くすんと鼻の風邪。薬飲んでも治らない。ぐずぐず一日家にいる。
26. 満月の光が玄関に差し込んで土間が明るい。下駄箱の靴も下駄も見える。
27. 「価格」「科学」「雅楽」の発音はよく似ている。
28. 坂の上から小さな石ころが転がってくる。
ころころ、ころころ転がってくる。
大きな石も転がってくる。
小さな石はころころ、大きな石はごろごろ転がってくる。
ころころ、ごろごろ転がってくる。
29. 子犬くんくん花を嗅ぐ
子猫ごろごろ喉鳴らす
のどかな午後が過ぎていく

30. 月曜日は、科学博物館見学。
 火曜日は、銀行に預金を下ろしに行く。
 水曜日は、学校の学園祭。
 木曜日は、ゴミの日、ゴミを出す。
 金曜日は、5時から合コン。
 土曜日は、故郷の家族へ手紙を書く。
 日曜日は、買い物と洗濯。あとはごろ寝して音楽を聴く。

「さ行」「ざ行」の練習

31. 算数は十分時間があったのにできたのはせいぜい3問で、その成績のせいで入試に失敗してしまった。それで先生と親父にさんざんしぼられた。
32. 笹原の風のさざめき過ぎゆきて、吹き過ぎしさき、さざめきゆらぐ。
33. 星と星、ささやき合いて星空に、かそけき音が、さざめき渡る。
34. 新入社員は、入社後、修善寺にある会社の研修所で1週間、合宿しながら研修を受ける。研修所は修善寺の町外れにあり、温泉付きの3階建てで見晴らしが良く、伊豆の山々が見渡せる。新入社員は、食事の時間を除いて終日研修を受けなければならない。夕食後は自由時間で、消灯まで各自好きなことをして過ごすことができる。
35. 枝垂桜、山桜、染井吉野など日本にはいろいろな種類の桜がある。春になると、お花見と称して桜の下で酒盛りをするのが昔からの習慣である。

36. テニスの試合^{しあい}があるので、この1週間^{しゅうかん}ずっと練習^{れんしゅう}をしてきたが、当日^{とうじつ}激しい風^{かぜ}が吹^ふいて試合^{しあい}は中止^{ちゅうし}になってしまった。
37. じっとしていてもじっとり汗^{あせ}が出る。シャツもじとじと濡^ぬれてくる。シャワーでジャージャー水^{みず}を浴^あび、じゃぶじゃぶじゃぶじゃぶシャツを^{あら}う。そのあと、冷^ひえたジュースをぐっと飲^のむのが^{たの}しみだ。
38. 日本^{にほん}は地震^{じしん}や火山^{かざん}の噴火^{ふんか}が多く、防災^{おおほ}には神経^{ぼうき}を遣^{しんけい}います。
39. 料理^{りょうり}の「さしすせそ」はそれぞれ、砂糖^{さとう}の「さ」、塩^{しお}の「し」、お酢^すの「す」、醬油^{しょうゆ}の「せ」、味噌^{みそ}の「そ」を指^さします。さまざまな調味料^{ちょうみりょう}を料理^{りょうり}にいれる順番^{じゅんばん}をわかりやすく表^{あらわ}しているのです。「醬油^{しょうゆ}」は「し」ではないかと言^いわれるかもしれませんが、実^{じつ}は、昔^{むかし}は「せうゆ」と書^かいて「しょうゆ」と読^よませていました。
40. 最近^{さいきん}は瘦身^{そうしん}ブームである。男性^{だんせい}も女性^{じょせい}も飽食^{ほうしょく}と運動^{うんどう}不足^{ふそく}で贅肉^{ぜいにく}が増^ふえ、それを取^とるためなら、出費^{しゅつぴ}をぜんぜん惜^おしまない。残念^{ざんねん}ながら、一時^{いちじ}期^き体重^{たいじゅう}を落^おとしても、すぐ元^{もと}に戻るか、前^{まえ}以上^{いじょう}の体重^{たいじゅう}になるというさんざんな結果^{けっか}になり、惨め^{みじ}な思^{おも}いをする人^{ひと}が多い。結局^{けつぎ}質素^{しやくそ}な食事^{しょくじ}と運動^{うんどう}の持続^{じぞく}が理想^{りそう}的^{てき}の瘦身^{そうしん}法^{ほう}なのである。

「す」「ず」「つ」の練習

41. 鈴木^{すずき}さん、ずいぶん涼^{すず}くなりましたね。ススキがそろそろ見^みごろですね。
42. 紺^{こん}のスーツに身^みを包^{つつ}み、今日^{きょう}は入學^{にゅうがく}手続^{てつづ}きだ。
43. 月塚^{つきづか}に月照^{つきて}る夜^{よる}は、つやめきて、椿^{つばき}、つわぶき、つやつや光^{ひか}る。

44. 築山つきやまの、つつじはないつしか花をつけ、つぼみおも重げな、夕月ゆうづき夜かな。
45. つんつんつきよ月夜の丸い月まるつき、つつじおかが丘つきに月が出た。
46. 鶴つるの頭あたまはつるつる、鶴つるの子この頭あたまもつるつる。
47. 机つくえの上うへのお皿さらにおやついつのドーナツつきが五つみのっている。
48. この月つきの月つきは美しい月うつくしき、つくづく月つきを見る。
49. 10月1日の昼がつついたち過ぎひるす、鈴ヶ岳すずがたけの山頂さんちように立つ。ここから、鈴鹿山脈すずかさんみやくの山々やまやまを一望いちぼうすることができた。昼食後ちゆうしょくご、尾根伝おねづたいに鈴鹿峠すずかとうげに出て、山やまを下くだった。沓掛くつかけの辺りあたりまで来ると、月つきが昇のぼり、ススキすずきにおおわれた野原のほらは、澄んだ月つきの光ひかりを浴びて輝かがやいていた。8時じ過ぎすにバスのに乗り、9時じを少し過ぎたころ津市つしに着いちいた。一日いちにちの行程こうていとしてはきつかったらしく、みんな疲れた様子つかれたようすだった。
50. 鈴木さんすずきと都築さんつづきは先月せんげつまでいっしょに通学つうがくし、机つくえを並べて勉強べんきようしていた。楽しい日々たのひびがいつまでも続くものと思おもっていたが、鈴木さんすずきが大阪おおさかへ転校てんこうしてしまった。

【注】「さ行」「ざ行」の練習素材とは別に「す」「ず」「つ」の練習項目を設けたのは、第2章第3課の1で説明したように、これらに共通する母音がほかの「う段」の拍の母音と異なること、そして、発音指導する場合「つ」が最も難しく、この音を教えるには「す」「ず」から導入したほうがやりやすいという事情による。したがって、前出の「さ行」「ざ行」の練習は、厳密にいうと「す」「ず」を除いたものである。

「た行」「だ行」「ば行」「ら行」の練習

51. だれもいない、たんぼの中に
 案山子^{かかし}が一つ、立^たっていた
 小さな鳥^{ちいとり}が飛^とんできて
 案山子^{かかし}の頭^{あたま}に降りてきた
 ちょっととまってチチッと鳴^ないて
 またどこかへ飛^とんでいった
52. ドンドン、だれかが戸^とを叩^{たた}く
 だれかが何^{なに}か言^いっている
 父^{とう}さんが2階^{かい}から
 トントントンと下^おりてきた
 一昨日^{おととい}父^{とう}さん旅^{たび}先^{さき}で
 出^だした土産^{みやげ}が着^ついたのだ
53. だれかが来^{らい}期^きは灘^な電^{でん}の株^{かぶ}があ^あがるだろ^いうと言^いっていたが、株^{かぶ}を持^もっていない我^{われ}々^{われ}
 にとつては上^あがろ^きうが下^さがろ^{かん}うが関^{かん}係^{けい}ない話^{はなし}だ。
54. なだらかな奈^な良^らの奈^な良^ら坂^{さか}だらだ^ざら坂^{さか}、誰^{だれ}もがだ^ざらだ^ざら坂^{さか}下^{くだ}る。
55. 裏^{うら}の道^{どう}路^ろで毎^{まい}晩^{ばん}ロ^{れん}ド^しレー^{ゆう}スの練^{れん}習^{しゅう}を^やつてい^る奴^{やつ}が^いるが、い^った^い誰^{だれ}なん^だら^う。
56. だれでもどこでも料^{りょう}理^りは^でき^る。大^{だい}根^{こん}、蓮^{れん}根^{こん}、昆^{こん}布^ぶに牛^ご蒔^{ぼう}、ど^れを^{つか}つて^も料^{りょう}理^り
 は^でき^る。

57. 好きなものはくだもの、第1はライチ、第2はりんご、嫌いなくくだものはないが、葡萄は種を出すのが面倒だからだめなんだ。
58. だめだよ、学校をサボっては。誰だって勉強より遊ぶのが好きだろうけれど、今がいちばん大事な時なんだから。
59. 昔は日本の子供の名前といえば、太郎、次郎、三郎、そのあと四郎、五郎とずっと続いたものだが、今は子供が少ないのでせいぜい三郎どまりだ。
60. ラナダーン連峰がなだらかに峰を連ね、その連なりのはるか上の空を雁の群れが鳴きながら流れるように飛び去っていく。
61. 「何だろう、あの並んでいる人の列は？」
「何だかわからないけど、人が並んでいればきつと珍しいものを売っているんだろう。売り切れたらいけないと思って、それで誰もが並んでいるんだろうな」
62. だめだよ、だめだよ、並ばなくて。1列に並んでくれ。列を崩さないでゆっくり歩いて左の門から入ってくれ。つきあたりの廊下に椅子が置いてあるからそれに座り、呼ばれたら一人ずつ中に入ってくれ。
63. 筑波のおばあちゃんは母の母、千葉のおばあちゃんは父の母、筑波のおばあちゃんも千葉のおばあちゃんもどちらも入れ歯、お豆腐やバナナばかり食べている。
64. 悪いことをするとたたりに遭うといわれている。
65. 遅くなるようだったら、ご連絡ください。

促音の練習

66. おなかが張^はってとっても苦^{くる}しかった。
67. ありがずら^{なが}つと長い列^{れつ}を作^{つく}って這^はっている。這^はっていつていつたいどこに行^いくんだろう。
68. ここへ来^きて、この切手シートの切手^{きつて}を切^きって、そこの小包^{こづつみ}の上^{うへ}に貼^はって、郵便局^{ゆうびん}へ出^でしに行^いって来^きてください。
69. 小さい時計^{ちい とけい}はチクタクチクタク、チクタクチクタク。
 大きい時計^{おお とけい}はチックタック、チックタック。
 朝^{あさ}から晩^{ばん}までチクタクチクタク、チックタック。
 鳴^なってる、鳴^なってる、時計^{とけい}のお店^{みせ}の時計^{とけい}たち。
70. 残^{のこ}っていたご飯^{はん}とずっと前^{まえ}に買^かっておいたらつきようをいっしょに炒^{いた}めて食^たべてさっそく出^{しゅっしん}勤^{きん}した。ちょっと時^じ間^{かん}が早^{はや}かったので、1階^{かい}の喫^{きつ}茶^{きてん}店でコーヒーをすすってから6階^{かい}のオフィ^{おふい}スに向^{むか}った。「さっきのコーヒーはうまかったな。今日^{きょう}も思^{おも}いっきり仕^し事^{ごと}をしよう」と思^{おも}った。
71. 彼^{かれ}はむくつと立^たちあがって、私^{わたし}をちらつと見^みて、ちよつと笑^{わら}って、黙^{だま}って出^でて行^いってしま^いった。私^{わたし}は一瞬^{いっしゆん}あつけにとられた。バタツと閉^しまるドア^{おと}の音^{おと}が、シー^しンと静^{しず}まり返^{かえ}った部屋^{へや}に響^{ひび}き渡^{わた}った。それっき^{かれ}り、彼^{かれ}は戻^{もど}ってこなかつた。
72. ワッショイ、ワッショイ、お祭^{まつ}りだ。
 おみこし担^{かつ}いで、ワッショイ、ワッショイ。
 踊^{おど}って歌^{うた}って、大騒^{おおさわ}ぎ。
 真夏^{まなつ}の夜空^{よぞら}に、花^{はな}が咲^さく。

73. さあ、さあ、寄^よってらっしゃい、見^みてらっしゃい。とびつき^{じょうとう}り上等のジャケットだよ。化学^{かが}繊維^{がくせん}はいっさい入^{はい}っていない正^{しょう}真正^{しんしょう}銘^{めい}の純^{じゅん}毛^{もう}。買^かって決^{けつ}して損^{そん}しないお買^かい得^{とく}もの。さあ、さあ、手^てにとつて見^みてごらんな。
74. 夫^{おつと}の実^{じつ}家^かは北^{ほく}海^{かい}道^{どう}なのでめ^かったに帰^{かえ}れない。夫^{おつと}は来^{らい}週^{しゅう}、出^{しゅつ}張^{ちやう}ついでに寄^よって来^こようと言^いっている。昨^{きのう}口^{くち}大^おのお父^{おとう}さんか^から電^{でん}話^わがかか^かってき^きた。楽^{たの}しみに待^まっているそう^{そう}だ。
75. A: いっしょに歌^{うた}ってください。
 B: 歌^{うた}は全^{まった}くだめなの。
 A: 一^{いっ}曲^{きよく}ぐらい聞^きかせてよ。
 B: 困^{こま}っちゃったな。

長音の練習

76. 名^{めい}東^{とう}高^{こう}等^{とう}学^{がく}校^{こう}の修^{しゅう}学^{がく}旅^{りょ}行^{こう}は東^{とう}京^{きょう}で、名^{めい}東^{とう}小^{しょう}学^{がく}校^{こう}の修^{しゅう}学^{がく}旅^{りょ}行^{こう}は京^{きょう}都^とと大^{だい}阪^{はん}だそ
うだ。
77. 中^{ちゅう}国^{ごく}東^{とう}北^{ほく}部^ぶの遼^{りょう}寧^{ねい}省^{しょう}の省^{しょう}都^とは瀋^{しん}陽^{やう}で、そのほ^ほか大^{だい}きな都^と市^しとし^しては、錦^{きん}州^{しゅう}と營^{えい}
口^{こう}がある。
78. 弟^{おとうと}が東^{とう}京^{きょう}大^{だい}学^{がく}に合^{ごう}格^{かく}したので、おじいさんもおばさんもお喜^{およろこ}びでし^した。その
報^{ほう}告^{こく}を聞^きいた当^{とう}日^{じつ}は興^{こう}奮^{ふん}して眠^{ねむ}れなかつたそう^{そう}です。相^{そう}当^{とう}うれし^しかつたのでし^しょ
う。弟^{おとうと}の高^{こう}校^{こう}の卒^{そつ}業^{ぎやう}式^{しき}には、わ^わざ^ざわ^わ九^{きゅう}州^{しゅう}か^から大^{だい}阪^{はん}に^に来^きてくれ^{くれ}まし^{まし}た。私^{わたし}の
家^{いえ}で十^{じゅう}分^{ぶん}休^{きゅう}養^{やう}をとつてか^から、東^{とう}大^{だい}の入^{にゅう}学^{がく}式^{しき}に出^{しゅつ}席^{せき}するた^ために東^{とう}京^{きょう}ま^まで弟^{おとうと}と同^{どう}
行^{こう}する予^よ定^{てい}です。

79. テレビの報道によれば、今年のメーデーに、航空会社の労働組合が、賃金交渉のためのストライキを決行するらしい。
80. 今朝のニュースによると、先般のテロ事件の影響を受けて、大手の旅行会社がとうとう倒産したそうだ。膨大な負債を抱えた最高責任者が夕べから失踪しているそうだ。警察は方々を捜索しているが、その行方がいっこうにわからない。その会社に融資をした銀行も大きな損害を被ることになった。

撥音の練習

81. 安藤さんは3年間南京観光専門学院で勉強していたが、来年3月からは香港の観光会社に勤務して日本人観光団体専門にガイドをするそうだ。
82. いったん決断したら、前途にどんな困難があろうと、乗り越えていくんだ。
83. 今度の試験問題は全部簡単な問題だったので、百点満点の答案が書けた。
84. 日本では年末になると、親戚や知人に感謝の意を込めて「昨年は大変お世話になりました」と書いて年賀状を送る。送る人がたくさんいる場合は、全部手で書くのは大変なので、パソコンを使って作る人も多い。印刷したものと冷たい感じがすると考えている人は、一言「お元気ですか」と書き添えればいい。
85. 満員電車に乗るのは心身の健康を害する。交通機関がどんどん発達して便利になった反面、人間らしい空間の使い方が難しくなった。文明の利器は人類を幸福にしたのだろうか。産業社会の発展がもたらした矛盾は大きい。

母音の無声化の練習

86. 草津^{くさつ}発^{はつ}7時の^じ汽車^{きしや}で首相^{しゅしやう}が発^{しゅつ}発^{ぱつ}します。

87. 月の^{つき}光^{ひかり}さやけく秋^{あき}の^{ちか}近^しきを^し知りぬ。

88. 汽車^{きしや}汽車^{きしや}シュッポ^{しゅっぱ}シュッポ^{しゅっぱ}、汽車^{きしや}が行^いく。

89. 菊^{きく}地^ち家^けのお墓^{はか}の菊^{きく}は白^{しろ}い菊^{きく}でした。

90. 明日^{あした}の「ひかり」の切^き符^ふを買^かいに行^いきます。

91. 白^{はく}菜^{さい}を1キ^かロ買^きって来^きてください。

92. くしやみはくし^くょん、風^か邪^ぜをひく。

93. 羊^{ひつじ}が1匹^{びき}、牧^{ぼく}草^{そう}地^ちで草^{くさ}を食^たべていまし

94. 木^{もく}星^{せい}も地^ち球^{きゅう}や月^{つき}と同^{おな}じ惑^{わく}星^{せい}です。

95. いつか好^すきな人^{ひと}と星^{ほし}の下^{した}で楽^{たの}しく話^{はな}したい。

アクセントの練習

96. さっきの変^{へん}な奴^{やつ}はどこの誰^{だれ}なんだろう。

97. 2羽^わの鳶^{とび}が空^{そら}に輪^わをかいて今日^{きょう}も舞^まっている。

98. 2羽の鶏は庭の片隅で餌をつつきながら時々頭をもたげている。
99. 昨夜の激しい嵐で山桜はみんな散ってしまった。
100. あの男の人は、時々時計を見ながらずっと誰かを待っている。
101. このところの寒さで、裏山の楓もにわかに色づいてきた。
102. 昨日、高等学校教育審議会が開かれ、いろいろな議題が検討された。
103. 先週、東京国立劇場で、日本伝統芸能がぞくぞくと上演され、花形役者たちが次々と名演技を披露した。連日の舞台に、さすがの役者たちも疲労の色が見え始めた。
104. 中国主催の中国語弁論大会に参加した外国語専門学校生に、大会実行委員長から参加記念品が贈られた。
105. 昨日の数学の時間に出された三つの問題のうちの一つは、結局できなかった。
106. 昨日、数学の時間に三つの問題が出された。そのうちの一つは結局できなかった。
107. 世界屈指の美術館であるスペインのプラド美術館の所蔵作品が日本で初めて紹介される。
108. プラド美術館はスペインのマドリッドにある。この美術館は世界屈指の美術館ですぐれた作品を多数所蔵している。それが初めて日本で紹介されることになった。

109. T・E・カーハート『パリ^{き がん}左岸のピアノ^{こうぼう}工房^{しんちよう}』新潮 Crest ブックス。パリに住みついた「わたし」が^{で あ}出会^{ちい}った小^{こうぼう}さな工^{わか}房^{しよくにん}の若^{おも}きピ^でア^{しな}ノ職人。思い出の品、^{こ こん}古^{めい き}今^{ま ほう}の名器、いくつものピ^{さいせい}ア^{せい}ノが魔^ま法^{ほう}のよう^{せい}に再^{さい}生^{せい}されていく。
110. ^{いけ なか き}池^{はす はな}の中^{はな}に咲^{はな}いている蓮^{たま}の花^{しろ}は、み^{しろ}んな玉^{なか}のよう^{しろ}にま^{しろ}っ白^{しろ}で、そのま^{なか}ん中^{なか}にある^{しろ}金^{きんいろ}色^{すい}の蕊^{すい}からは、何^{なん}ともい^{なん}えな^{なん}い好^よい匂^{にお}いが、た^{なん}えま^{なん}なくあ^{なん}たりへあ^{なん}ふれてお^{なん}ります。極^{ごく}楽^{らく}はち^{ごく}ょうど朝^{あさ}な^{あさ}のでご^{あさ}ざい^{あさ}ま^{あさ}しょう。(芥川龍之介『蜘蛛の糸』)

総合篇

会話の練習

1. 〈大学のキャンパス内で〉

学生：先生、おはようございます。

先生：あ、おはよう。

学生：今、先生の研究室へお伺いするところでした。

先生：そう、何か用かね。

学生：昨日締め切りのレポートを今持っていくところなんです。

先生：でも、提出期限は昨日までなんだから、今日持ってきても受け取るわけにはいかないよ。

学生：はい、でも、昨日は自転車で学校に来る途中、車にぶつかって、そのまま病院へ行きましたので、お届けできませんでした。

先生：そういうことか。それで、もうけがはいいの。

学生：軽い打撲で、全治1週間だそうです。でもまだ歩くと右膝が少し痛みます。

先生：それは大変だね。そういうことなら、とりあえずレポートはもらっておこう。

学生：はい、どうもありがとうございます。

先生：それではお大事に。

学生：ありがとうございます。失礼します。

2. 〈学生Aが日本人らしい学生を連れてきて、学生Bに「この人、日本人らしいので、話をきいてやって」と頼んだ〉

学生B：あの、日本の方ですか。

日本人：あ、よかった。日本語が話せるんですね。

学生B：日本語科2年の王と申します。

日本人：山田です。よろしく。ところで、王君は日本語科の林教授の研究室を知っていますか。

学生B：はい、今、林先生の授業を取っています。

日本人：それはよかった。先生の研究室にはどう行ったらいいですか。

学生B：2号館の3階ですが、ここからでは、わかりにくいので、私がお案内します。

日本人：それはどうも。

自己紹介の練習

3. 私、王と申します。中国の天津からまいりました。どうぞよろしくお願ひいたします。
4. 私、中国の吉林省からまいりました李でございます。東京の大学でコンピューターのソフトの勉強をする予定でおります。はじめの1年間は日本語学校で日本語を勉強して、そのあと大学に進学するつもりです。これからもよろしくお願ひいたします。
5. ただいまご紹介にあずかりました楊です。日本に来て半年になりますが、日本語はまだあまりうまく話せません。しかし、日本にいるあいだはできるだけ日本語で話したいと思っています。
6. 私、王新と申します。中国の黒龍江省ハルビン市からまいりました。今まで地元（じもと）のハルビン第一高校で日本語を教えてまいりました。教え始めてから今年で10年になります。あちらでは教科書も辞書もなかなか思うようには手に入らず、厳しい条件のもとで日本語を教えておりますが、授業は生徒も私も楽しくやっております。ただ日本語の教師としてはもっと日本語や日本語の教授法を勉強しなければならぬといつも痛切に感じておりました。幸い、このたび日本留学の機会を与えられ、大変光栄、かつ幸運なこととうれしく、またありがたく存じております。この機会を生かしてさらに深く日本や日本人を知り、また自身の勉強を進めていきたいと願っております。今後ともよろしくご指導くださいますよう。以上はなほだ簡単でございますが、ごあいさつに代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

朗読の練習

蜘蛛の糸

一

ある日のことでございます。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、ひとりでぶらぶらお歩きになっていらっしゃいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようになっ白で、そのまん中にある金色の蕊からは、何ともいえない好い匂いが、たえまなくあたりへあふれております。極楽はちょうど朝なのでございましょう。

やがてお釈迦様はその池のふちにおたたずみになって、水の面をおおっている蓮の葉の間から、ふと下のようすをごらんになりました。この極楽の蓮池の下は、ちょうど地獄の底にあたっておりますから、水晶のような水をすきとおして、三途の河や針の山の景色が、ちょうどどのぞきめがねを見るように、はっきりと見えるのでございます。

するとその地獄の底に、韃陀多という男が一人、ほかの罪人と一しょにうごめいている姿が、お眼にとまりました。この韃陀多という男は、人を殺したり家に火をつけたり、いろいろ悪事をはたらいた大泥坊でございしますが、それでもたった一つ、善いことをいたした覚えがございします。と申しますのは、ある時この男が深い林の中を通りますと、小さな蜘蛛が一匹、路ばたをはって行くのが見えました。そこで韃陀多は早速足をあげて、ふみ殺そうといたしました。が、「いや、いや、これも小さいながら、命のあるものに違いない。その命をむやみにとるということは、いくら何でもかわいそうだ。」と、こう急に思いかえして、とうとうその蜘蛛を殺さずに助けてやったからでございします。

お釈迦様は地獄のようすをごらんになりながら、この韃陀多には蜘蛛を助けたことがあるのをお思い出しになりました。そうしてそれだけの善いことをした報いには、できるなら、この男を地獄から救い出してやろうとお考えになりました。さいわい、そばを見ますと、翡翠のような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、

美しい銀色の糸をかけております。お釈迦様はその蜘蛛の糸をそっとお手にお取りになって、玉のような白蓮の間から、はるか下にある地獄の底へ、まっすぐにそれをおおろしなさいました。

二

こちらは地獄の底の血の池で、ほかの罪人といっしょに、浮いたり沈んだりしていた韃陀多でございます。何しろどちらを見ても、まっ暗で、たまにそのくら暗からぼんやり浮き上がっているものがあると思いますと、それは恐ろしい針の山の針が光るのでございますから、その心細さといったらございません。その上あたりは墓の中のようにしんと静まりかえって、たまに聞こえるものといつては、ただ罪人がつくかすかな嘆息ばかりでございます。これはここへ落ちてくるほどの人間は、もうさまじまな地獄の責苦に疲れはてて、泣き声を出す力さえなくなっているのでございます。ですからさすが大泥坊の韃陀多も、やはり血の池の血にむせびながら、まるで死にかかった蛙のように、ただもがいてばかりおりました。

ところがある時のことでございます。何気なく韃陀多が頭をあげて、血の池の空を眺めますと、そのひっそりとした暗の中を、遠い遠い天上から、銀色の蜘蛛の糸が、まるで目にかかるのを恐れるように、一すじ細く光りながら、するすると自分の上へ垂れてまいるのではございませんか。韃陀多はこれを見ると、思わず手をうって喜びました。この糸にすがりついて、どこまでものぼっていけば、きっと地獄からぬけ出せるのに相違ございません。いや、うまくいくと、極楽へはいることさえもできましょう。そうすれば、もう針の山へ追い上げられることもなくなれば、血の池に沈められることもあるはずはございません。

こう思いましたから韃陀多は、早速その蜘蛛の糸を両手でしっかりとつかみながら、一生懸命に上へ上へとたぐりのぼり始めました。もとより大泥坊のことでございますから、こういうことには昔から、慣れきっているのでございます。

しかし地獄と極楽との間は、何万里となくございますから、いくら焦ってみたところで、容易に上へは出られません。ややしばらくのぼるうちに、とうとう韃陀多も

くたびれて、もう一たびぐりも上の方へはのぼれなくなっていました。そこで仕方がございませんから、まず一休み休むつもりで、糸の中途にぶらさがりながら、はるかに目の下を見下ろしました。

すると、一生懸命にのぼったかいがあつて、さっきまで自分がいた血の池は、今ではもう暗の底にいつのまにかかくれております。それからあのぼんやり光っている恐ろしい針の山も、足の下になってしまいました。この分でのぼっていけば、地獄からぬけ出すのも、存外わけがないかもしれません。韃陀多は両手を蜘蛛の糸にからみながら、ここへ来てから何年にも出したことのない声で、「しめた。しめた。」と笑いました。ところがふと気がつきますと、蜘蛛の糸の下の方には、数かぎりもない罪人たちが、自分ののぼったあとをつけて、まるで蟻の行列のように、やはり上へ上へ一心によじのぼってくるではございませんか。韃陀多はこれを見ると、驚いたのと恐ろしいのとで、しばらくはただ、ばかのように大きな口を開いたまま、眼ばかり動かしておりました。自分ひとりでさえ断れそうな、この細い蜘蛛の糸が、どうしてあれだけの人数の重みにたえることができましょう。もし万一途中で断れたといたしましたら、せっかくここへまでのぼって来たこの肝腎な自分までも、もとの地獄へさか落としに落ちてしまわなければなりません。そんなことがあったら、大変でございます。が、そういううちにも、罪人たちは何百となく何千となく、まっ暗な血の池の底から、うようよとはい上がって、細く光っている蜘蛛の糸を、一列になりながら、せっせとのぼってまいります。いまのうちにどうかしなければ、糸はまん中から二つに断れて、落ちてしまうのに違いありません。

そこで韃陀多は大きな声を出して、「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は己のものだぞ。おまえたちはいったい誰にきいて、のぼって来た。下りろ。下りろ。」とわめきました。

そのとたんでございます。今まで何ともなかった蜘蛛の糸が、急に韃陀多のぶらさがっているところから、ぶつりと音をたてて断れました。ですから韃陀多もたまりません。あつというまもなく風を切って、独楽のようにくるくるまわりながら、みるみるうちに暗の底へ、まっさかさまに落ちてしまいました。

あとにはただ極楽の蜘蛛の糸が、きらきらと細く光ながら、月も星もない空の中

途に、短く垂れているばかりでございます。

三

お釈迦様は極楽の蓮池のふちに立って、この一部始終をじっと見ていらっしゃいましたが、やがて韃陀多が血の池の底へ石のように沈んでしまいますと、悲しそうな顔をなさりながら、またぶらぶらお歩きになり始めました。自分ばかり地獄からぬけ出そうとする、韃陀多の無慈悲な心が、そうしてその心相当な罰をうけて、もとの地獄へ落ちてしまったのが、お釈迦様のお目から見ると、あさましくおぼしめされたのでございましょう。

しかし極楽の蓮池の蓮は、少しもそんなことには頓着いたしません。その玉のような白い花は、お釈迦様の御足のまわりに、ゆらゆら尊を動かして、そのまん中にある金色の蕊からは、何ともいえない好い匂いが、たえまなくあたりへあふれております。極楽ももう午に近くなったのでございましょう。

このシリーズの制作にあたって、以下の団体や企業からご協力いただきました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

■助成

(株) 講談社 (国際交流基金特定助成)

(社) 東京倶楽部

■協賛

キングレコード株式会社 / 日本皇声唱片股份公司

漢語話者のためのわかりやすい日本語シリーズ⑤ 発音指導の手引き

2002 年 7 月発行

発行人 田所宏之

発行所 (財) 国際文化フォーラム/ The Japan Forum

〒163-0726

日本国東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビル 26 階

電話 (81) 3-5322-5211 FAX (81) 3-5322-5215

E-mail: forum@tjf.or.jp <http://www.tjf.or.jp>

表紙デザイン・基本フォーマット 向井裕一

組版 (有) 新疆

イラスト 浅山友貴

校正 佐田一郎

© 2002 by The Japan Forum, Printed in China

本書の無断転載、複製は固くお断りします。

漢語話者のための
わかりやすい日本語シリーズ⑤

発音指導の 手引き